



支部だより No.147

日本山岳会京都・滋賀支部

2022年 6 月 15 日

山に登ろう

ー山歩きやアルパインクライムを楽しもうー

松下征文

新型コロナウイルス第6波感染者は激増し、京都府にもまん延防止等重点措置（1月27日）が適用され3月22日に解除されました。多くの感染者が苦しい思いをされたでしょう。今後どうなるかもわかっていません。第7波が起きないことを祈るばかりです。

ロシアのウクライナへの侵略戦争も先が見えない状況です（4月25日現在）。

4月2日（土）14:00より第37回支部総会が開かれ、報告と計画が発表されました。

新年度はシリーズ山行が増えました。どなたでも参加できます。まず参加してみましょう。これからの自分の山行目的を追求し、若い方には、より困難、より高くを目指していただきたい。自分は高齢者と思っている方は、若き日に出来なかった夢を楽しく追いかけてみてはどうでしょうか。

昨年度に入会された方も躊躇せずに計画に参加しましょう。一緒に登る楽しさを知り、安全な山登りを続けたいですね。

総会後には、2019年度秩父宮賞を受賞された安間繁樹氏「人生を決めた西表島とボルネオ島の自然と人々」のタイトルで講演があり両島での長年にわたる研究生活の話はなかなか素晴らしい内容で、特にイリオモテヤマネコの生態については興味深くお聞きすることが出来ました。

安間繁樹さんと共に西表島を訪ねる計画も決まりそうです。是非とも行ってみたいですね。

若い方を中心に先輩会員の指導でクライミングや山スキーが盛んになってきました。大きな目標に向けてトレーニングに励み、若い発想で計画立案を実施してください。

会員山行時は必ず計画書を提出し、山岳保険への加入や継続を忘れないようにしましょう。計画書と山岳保険は日帰りの近場の山でも必須の装備と考えてくだ

さい。

京都・滋賀支部は若者が支える山岳会を目指し、指導者、リーダー育成も考えねば明日の若返りは期待できません。無所属の若い登山者や初心者をみんなで呼び込みましょう。26歳までは入会金は要りません。年会費も半額です。若いときにアルパインクライミングを楽しんでいただきたい。

多くの登山者でにぎわう山も良いですが、ほかにも素晴らしい絶景や、登る楽しさを味わえる山が山ほどあります。それは地形図が教えてくれます。地形図に親しみ自分の山を見つけてみましょう。

「日本山岳会京都・滋賀支部 2022 年度 (令和 4 年度) 第 37 回総会」報告

伊原哲士

皆様には日本山岳会京都・滋賀支部の諸活動について日頃よりご協力を頂き感謝申し上げます。

日本山岳会京都・滋賀支部 2022 年度（令和 4 年度）第 37 回総会が 4 月 2 日（土）に京都・鴨沂会館にて開催されました。新型コロナウイルスの第 6 波での「蔓延防止措置」は前月の 3 月 22 日から京都でも解除になりました。新型コロナウイルスは収束した訳ではなく引き続き第 7 波の警戒を要する中での開催でした。高齢会員や遠方の会員も多く困難な中での開催となりました。

【要旨】

- ・ 2022 年 4 月 2 日（土）に鴨沂会館にて日本山岳会京都・滋賀支部第 37 総会を開催。総会議長は、総会司会者の森栄司委員の発議で駒井治雄委員を選任しました。
- ・ 総会出席予定者 31 名、総会委任状 37 人支部会員総数 135 名中、68 名の参加で総会成立を確認しました。
- ・ 議決内容は「2021 年度事業報告」「2021 年度決算報告」、「2022 年度支部役員確認（2021 年度総会で 2 年任期の為）」、「2022 年度事業計画（案）」「2022 年度

予算(案)」の5点。全てに反対はなく成立しました。

- ・新型コロナウイルス禍での困難な中で、様々な支部例会、京都新聞「近江の山々」連載の取り組み、「古道調査活動」等の支部活動が実施出来ました。安全登山活動の一つとしての日本山岳会の特別事業補助金の対象事業の「健幸登山教室」は旺盛に実施されました。同志社大学ワンダーフォーゲル部が積雪期登山への技術指導を支部に求めました。支部の「山行部」委員を中心として技術指導をおこないました。「登山文化の継承」「若手登山家の育成と次世代への支部の継承」「安全登山」「自然保護等の日本山岳会としての諸活動の取り組み」など課題は山積していることを確認しました。
- ・記念講演は、2019年度秩父宮山岳賞受賞者の安間繁樹氏の「人生を決めた西表島とボルネオ島の自然と人々」を新型コロナ禍で再々延期しましたが今回は実施できました。講演出席者は一般も入れて36名でした。講演会後の講演者との懇親会は河原町蛸薬師「台所てんや」で18名の出席でした。

「2021 年度事業報告」

コロナ禍で困難なこともありましたが、2021年度も多くの支部行事が行われました。その概要を総会で報告いたしました。毎号の支部だよりで報告した活動以外の支部事業として、2018年度～2019年度の2年にわたる『丹波の山々』、2020年度約1年にわたる京都新聞連載の『京都の山々』、2021年度の『近江の山々』にも取り組みました。

「2021 年度決算報告」

2021年度は新型コロナウイルス禍での活動中止により支部財政出動も少なくなりましたが、支部会員減、不況下での広告収入源などで厳しい会計が続きます。会員・会友・友の会の会費の未納問題も発生しております。対策が必要です。

【2022 年度支部役員】

2021年度総会で2年の任期で承認されていますので、2022年度役員に大きな変更はありません。福田文夫委員は今期で退任します。「支部だより」編集委員が福田文夫委員、山田和男会員退任にともない2名が欠員となります。支部「古道調査」委員長は村上正委員が引き続き務めます。

他の役員の変更はありません。今後も支部の役員の若返りにも積極的に取り組みます。

「2022 年度事業計画」

新型コロナウイルスの状況により引き続き困難な運

営が予想されます。

支部例会は「文学の山々」「健幸登山教室」「未知の山旅」「北山探訪」「山歩会」「巨木探訪」「巨木と展望の旅」「テント泊登山」「山のスケッチ」「歴史と文化の山旅」「近畿二府四県の低山一等三角点を登る」「大文字納涼山行」等と新たなテーマで取り組まれます。今期は具体化が少ないですが、若い会員のレベルの高い例会の取り組みも課題となります。新型コロナウイルスの蔓延に現実対応しながら、「安全登山」「命と健康を大切にする」立場での登山運営が予想されます。他支部との交流も同様です。

他支部との交流では、「岐阜支部50周年」「5支部懇親山行」「5支部スキー」等が取り組まれます。

京都新聞連載は『近江の山々』が終了し、次の新連載については大槻雅弘委員が担当として京都新聞と折衝中です。

「2022 年度予算」

2021年度予算も新型コロナウイルスの蔓延禍で、予想できない会計が続きます。引き続き、支部会計の「安定と健全化」に取り組めます。

【2022 年度京都「今西錦司賞」】

2022年度の京都「今西錦司賞」も該当者なしでした。

新型コロナウイルスの蔓延で活動も低迷していることもあり、選考委員会を代表して齋藤惇生委員長より「次年度に期待したい」旨の説明が総会でありました。

《日本山岳会京都・滋賀支部 2022 年度事業計画》

1. 例会山行、講習会、総会、講演会等

(京都・滋賀支部)

(4 月)

2022 年 4 月 2 日 (土) 日本山岳会京都・滋賀支部総会
記念講演 安間繁樹氏 (2019 年秩父宮山岳賞受賞)

2022 年 4 月 10 日 (日) 健幸登山教室 1

比良山縦走 担当：松下支部長

2022 年 4 月 10 日 (日)

近畿二府四県の低山の一等三角点を登る

城山 (志方城山・兵庫) 担当：大槻委員

2022 年 4 月 12 日 (火) 北山探訪

伊賀谷山 担当：笠谷副支部長

2022 年 4 月 21 日 (木) ~ 26 日 (火) 未知の山旅

南九州方面 担当：笠谷副支部長

2022 年 4 月 22 日 (金)

春のスケッチ山行 担当：山田会員

2022 年 4 月 25 日 (月) ~ 27 日 (水)

日本山岳会科学委員会・千葉・静岡・関西・京都滋賀各支部

「古道文化探索紀行②」(伊勢路と新宮・尾鷲)

担当：伊原事務局長

2022 年 4 月 26 日 (火) 山歩会

竜王山 (奈良) 担当：中川監事

2022 年 4 月 28 日 (木)

巨木探訪 担当：山村委員

2022 年 4 月 29 日 (金) 文学の山々へ

比良のシャクナゲ (井上靖) 堂満岳

担当：松下支部長

(5 月)

2022 年 5 月 2 日 (月) ~ 5 日 (木) 健幸登山教室 2

八方尾根~唐松岳 担当：松下支部長

2022 年 5 月 8 日 (日)

今西錦司レリーフの集い 担当：中川監事

2022 年 5 月 15 日 (日) 健幸登山教室 3

人工壁クライミング 担当：松下支部長

2022 年 5 月 15 日 (日)

近畿二府四県の低山の一等三角点を登る

コウノ巢山 (友ヶ島・和歌山) 担当：大槻委員

2022 年 5 月 21 日 (土) 歴史と文化の山旅

高所集落遺跡を訪ねて (芦屋市・金下山遺跡)

担当：伊原事務局長

2022 年 5 月 26 日 (木)

巨木探訪 担当：山村委員

2022 年 5 月 28 日 (土) 北山探訪

オークラノ尾 担当：笠谷副支部長

2022 年 5 月 31 日 (火) 山歩会

雪野山

担当：中川監事

(6 月)

2022 年 6 月 5 日 (日) 健康登山教室 4

金比羅山岩場クライミング 担当：松下支部長

2022 年 6 月 11 日 (土) ~ 12 日 (日) テント泊登山の会

那岐山

担当：田中顧問

2022 年 6 月 18 日 (土) ~ 19 日 (日)

巨木探訪 巨木と沢上谷の展望 担当：山村委員

2022 年 6 月 25 日 (土) 文学の山々 1

大和三山 担当：松下支部長

2022 年 6 月 25 日 (土) 北山探訪

念仏 担当：笠谷副支部長

2022 年 6 月 28 日 (火) 山歩会

三嶽

担当：中川監事

2022 年 6 月 30 日 (木)

巨木探訪

担当：山村委員

(7 月)

2022 年 7 月 10 日 (日)

近畿二府四県の低山の一等三角点を登る

雨壺山 (雨壺山・滋賀)

担当：大槻委員

2022 年 7 月 16 日 (土) ~ 18 日 (月) 巨木と山岳展望の旅

長野方面

担当：山村委員

2022 年 7 月 22 日 (金) ~ 25 日 (月) 健幸登山教室 5

陀羅佛小屋・針ノ木岳 担当：松下支部長

2022 年 7 月 23 日 (土) 北山探訪

ムシンボ

担当：笠谷副支部長

2022 年 7 月 28 日 (木)

巨木探訪

担当：山村委員

2022 年 7 月 30 日 (土)

大文字山納涼山行

担当：笠谷副支部長

(8 月)

2022 年 8 月 11 日 (木)

山の日記念事業

担当：森委員・伊原事務局長

2022 年 8 月 13 日 (土) 健幸登山教室 6

沢登り 白滝谷

担当：松下支部長

2022 年 8 月 20 日 (土) 歴史と文化の山旅

青春 18 切符で行く湖東の古城巡り (安土城・佐和山城)

担当：森委員・伊原事務局長

2022 年 8 月 25 日 (木)

巨木探訪

担当：山村委員

2022 年 8 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日) 文学の山々 2

聖職の碑 (新田次郎) 木曾駒ヶ岳 担当：松下支部長

(9月)
 2022年9月(上旬) 文学の山々へ
 黒部源流山小屋暮らし(大和けいこ)薬師岳
 担当:松下支部長
 2022年9月17日(土)~19日(月) 巨木と山岳展
 望の旅 岐阜方面 担当:山村委員
 2022年9月20日(火) 北山探訪
 白倉岳 担当:笠谷副支部長
 2022年9月23日(金) 健幸登山教室7 文学の山々3
 夜叉ヶ池(泉鏡花)三周ヶ岳 担当:松下支部長
 2022年9月27日(火) 山歩会
 賤ヶ岳~山本山 担当:中川監事
 2022年9月29日(木)
 巨木探訪 担当:山村委員
 (10月)
 2022年10月8日(土)~9日(日) テント泊登山の会
 氷ノ山 担当:田中顧問
 2022年10月16日(日) 比良・ダング坊整備とBBQ
 懇親会(秋季) 担当:真名子委員
 2022年10月13日(木)~18日(火) 未知の山旅
 越後・会津方面 担当:笠谷副支部長
 2022年10月23日(日)
 近畿二府四県の低山の一等三角点を登る
 多祢寺山(多祢寺山・京都) 担当:大槻委員
 2022年10月25日(火) 北山探訪
 フカンド山・光砥山 担当:笠谷副支部長
 2022年10月25日(火) 山歩会
 古城山 担当:中川監事
 2022年10月27日(木)
 巨木探訪 担当:山村委員
 2022年10月28日(金)~30日(日) 歴史と文化の山旅
 奈良吉野古道を探索(JAC科学委員会と共催)
 担当:伊原事務局長
 2022年10月(下旬)
 秋のスケッチ 担当:山田会員
 (11月)
 2022年11月5日(土)~6日(日)
 五支部懇親山行(石川支部担当)オンソリ山(888m)
 担当:伊原事務局長
 2022年11月12日(土) 北山探訪
 桑谷山 担当:笠谷副支部長
 2022年11月22日(火) 山歩会
 剣尾山 担当:中川監事
 2022年11月24日(木)
 巨木探訪 担当:山村委員
 (12月)
 2022年12月11日(日)
 近畿二府四県の低山の一等三角点を登る
 神野山(神野山・奈良) 担当:大槻委員

2022年12月13日(火) 山歩会
 忘年山行 山域未定 担当:中川監事
 2022年12月14日(水)
 武奈ヶ岳の日 担当:真名子委員・土井委員
 2022年12月17日(土) 北山探訪
 忘年山行 小倉山 担当:笠谷副支部長
 2022年12月17日(土) 歴史と文化の山旅
 再訪・近つ飛鳥(大阪)担当:森委員・伊原事務局長
 (1月)
 2023年1月8日(日)
 初詣山行 担当:上田委員
 2023年1月10日(火) 北山探訪
 井戸山 担当:笠谷副支部長
 2023年1月18日(水)
 支部新年会 南禅寺「順正」
 担当:伊原事務局長・森委員
 (2月)
 2022年2月4日(土)~5日(日)
 五支部スキー山行 担当:伊原事務局長
 2023年2月11日(土)~12日(日) スキー例会
 野麦峠スキー場 担当:山村委員
 2023年2月25日(土)~26日(日)
 東海支部技術向上委員会「野伏山イグルー講習会」
 担当:笠谷副支部長
 (3月)
 2023年3月12日(日)
 近畿二府四県の低山の一等三角点を登る
 組石山(組石山・大阪) 担当:大槻委員
 2023年3月18日(土)~19日(日) 歴史と文化の山旅
 青春18切符で行く美作・津山の山旅
 担当:伊原事務局長
 2023年3月25日(土) 北山探訪
 タカノス 担当:笠谷副支部長
 2023年3月28日(火) 山歩会
 比叡山無動寺坂 担当:中川監事

(全国他団体関係)

2022年4月20日(水)
 日本山岳会関西支部総会
 2022年4月24日(日)
 「久弥祭」日本山岳会石川支部
 2022年5月19日(木)
 『梅棹忠夫・山と探検文学賞』
 2022年6月18日(土)
 日本山岳会総会
 2022年7月2日(土)~3日(日)
 日本山岳会自然保護全国集会
 2022年9月24日(土)~25日(日)
 日本山岳会全国支部合同会議

2022年10月1日(土)～2日(日)

全国支部懇談会(東海支部担当)

2022年12月3日(土)

日本山岳会年次晩餐会

2023年2月10日(金)～11日(土)

第11回日本山岳会登山教室指導者養成講習会 長野・

安藤百福センター

2. 支部役員会、各種委員会、活動、その他

(京都・滋賀支部定例役員会)

京都・滋賀支部役員会 毎月第1水曜日に開催(祝日の場合は第2水曜日)

(その他委員会)

「今西錦司レリーフを守る会」

中川 寛、大槻雅弘、駒井治雄、斎藤惇生

「今西錦司賞」選考委員会

斎藤惇生、岡田茂久、杉山イタル、塚本圭一

機関紙(支部だより)編集委員会 適時開催

中川 寛、幣内規男、山田和男

147号 2022年6月15日 発行予定

148号 2022年9月15日 発行予定

149号 2022年12月15日 発行予定

150号 2023年3月15日 発行予定

(部会活動)

自然保護部会

山行部会 * 2022年10月26日 開催予定

海外部会

日本山岳会京都・滋賀支部「古道調査委員会」

村上正〈責任者〉松下征文・伊原哲士・岡田茂久・

八木透・笠谷茂

ホームページ委員会

ダンダ山ダンダ坊森づくりの会

京都・滋賀支部友の会

(支部関連の会)

京都陀羅佛会

藤尾の森づくりの会(滋賀県「結いの森(藤尾の森)」、

定例作業日毎月第2土曜日)

2022年度 日本山岳会京都・滋賀支部役員

顧問	斎藤 惇生	酒井 敏明	塚本 圭一	薬師 義美	田中昌二郎
支部長	松下 征文				
副支部長	幣内 規男	笠谷 茂			
監事	中川 寛	八木 透			
事務局長	伊原 哲士				
委員	浅原 明男	荒木龍太郎	上田闊三郎	宇都宮道人	大槻 雅弘
	駒井 治雄	須藤 邦裕	竹下 節子	土井 文雄	野村 綾子
	真名子栄一	宮永 幸男	村上 正	森 栄司	山村 孝夫

担当任務(太字は責任者・[]は会員担当)

事務局	伊原 哲士	宇都宮道人(会計)	笠谷 茂		
	駒井 治雄(京都岳連)	竹下 節子(図書)		野村 綾子	
	松下 征文(滋賀岳連)	森 栄司			
遭難対策	駒井 治雄	上田闊三郎(留守本部)	荒木龍太郎	須藤 邦裕	
	真名子栄一	宮永 幸男	村上 正		
山行部	笠谷 茂	浅原 明男	荒木龍太郎	上田闊三郎	大槻 雅弘
	田中昌二郎	土井 文雄	中川 寛	幣内 規男	真名子栄一
	宮永 幸男	村上 正	森 栄司	山村 孝夫	松下 征文
古道調査	村上 正	伊原 哲士	笠谷 茂	松下 征文	八木 透
海外部	浅原 明男	田中昌二郎	真名子栄一		[岡田 茂久]
自然保護部	幣内 規男	伊原 哲士	野村 綾子	山村 孝夫	[岡田 茂久]
ホームページ	浅原 明男	伊原 哲士	上田闊三郎		
支部だより	中川 寛	幣内 規男	[山田 和男]		
友の会	上田闊三郎	真名子栄一	松下 征文		
今西錦司レリーフを守る会	中川 寛	大槻 雅弘	駒井 治雄	斎藤 惇生	
京都「今西錦司賞」選考委員会	斎藤 惇生	塚本 圭一	[岡田 茂久]	[杉山イタル]	

支部総会講演会報告

中川 寛

2019年度秩父宮記念山岳賞を受賞された安間繁樹氏(千葉支部会員)を講師にお迎えし、「人生を決めた西表島とボルネオ島の自然と人々」と題して支部総会講演会が行われた。当初、2020年の支部総会での講演を予定していたが、コロナ禍で延期となり、2年越しの講演会となった。

安間氏は、子供の頃から材木商の父と共に山に入られ、山や沢で虫を探したり小鳥を見たりして生き物好きの少年として育ち、大人になったら動物学者になろうと思っておられた。高校では山岳部で活動されたが、高2で父を亡くされ、材木屋を継ぐべく大学は法学部へ進まれた。山歩きや旅行は趣味として続け、北の北海道に憧れ単独での積雪期知床横断などしておられる。

そんな時、1965年(昭和40年)に「西表島で未知のヤマネコ発見」との衝撃のニュースが流れた。まだそんなところがあったのかと米軍統治下の西表島へ行き、全島を覆う密林、大自然に魅了され、魅力ある島の研究に青春のすべてを懸けてみようと思われされた。法学部卒業後改めて生物学を学び直され、現地で教員として仕事をしながら研究を始められたが、研究時間が足りず、大学院に戻って現地で生活し、イリオモテヤマネコの研究に専念された。西表島での生活は20代末まで続き、世界最初の映画撮影にも成功し、論文「イリオモテヤマネコの食性と採食行動」で東京大学から学位(博士号)を取得された。

講演では、夜行性のイリオモテヤマネコの生態を観察するため、木の上で寝た話、ヤマネコの食性を調べるのに便に含まれる生物を丹念に同定すること、撮影に用いる照明を廃車になった車のバッテリーを利用して手作りしたこと、ハブは鎌首を挙げた高さ30cmの距離しか攻撃できないことなど、いかにも楽しそうにお話いただいた。

琉球列島にはアマミノクロウサギ、ヤンバルクイナなど古い形質を持つ固有種が多いが、その謎を解く鍵は南にあるのではと考え、1985年(昭和60年)にボルネオ島を訪れた。キナバル山に登り、再訪できますようにと祈ったところ、夢はかなうもので、2ヶ月後、国際協力機構(JICA)から「ボルネオ島で研究プログラムが始まる。参加しないか」と電話が入った。渡りに舟とばかりにプログラムに参加され、足掛け25年間、正味16年間ボルネオ島で暮らし、動物の調査と若手研究者の育成を行っておられる。時間の都合で、

ボルネオ島でのお話を十分にお聞きすることができなかったが、会報「山」の2020年1月号に、「森林の魅力は歩いてみて初めて知る事なのだが、人々の営みを見ることから分かることを体得した。特に自分自身が、山の動物の一員となること、畏敬の念を持って自然と接することの大切さを学んだ」と書いておられる。機会があればボルネオ島のお話もじっくりお聴きしたいと願っている。

2010年(平成22年)に専門家としての海外生活を終了され、また、西表島の山歩きを再開しておられる。「西表島とボルネオ島の自然と人々の営みを、あるがままに記録する」ことを目標に、西表島のすべての峰と沢を踏破したいと時間を掛け、無理をせず、安全第一で歩き続けておられる。最新の著書「南島探検」を読んだが、西表島の沢を歩いた記録を実に丹念に記録しておられる。

講演会終了後、講師を囲んだ懇親会が「てんや」で開催された。支部としても久しぶりの「てんや」での懇親会で、大いに盛り上がった。

実施日:2022年4月2日(土)

参加者:36名

健幸登山教室 11

冬山入門報告

松下征文

今回も山頂へは向かわずに堂満ルンゼ下部堰堤周辺にて、豊富な積雪の中での冬山登山の基本を講習しました。

- 1:初心者同行雪山登山時の、急斜面登下降でのロープ確保方法。
- 2:ピッケル、アイゼンを使った登下降。
- 3:アバランチビーコンの性能を知ってもらうというデモ。
- 4:イグルスキー米山さんのイグルー作り。
- 5:50ミリ幅のテープスリングによる背負い搬送。

以上の内容で二班に分かれて行いました。

イグルーについては約50分で設営が出来ることを確認しました。来季の雪山ではイグルー泊山行を計画します。

急斜面でのロープ確保はシンプル、確実な方法を身に付けていただきたい。そのための装備としてどのような山行でもハーネス、カラビナ、スリングを加えて欲しい。ハーネスはコンパクトで軽いものが売り出さ

れているのでそろえましょう。

テープスリングによる背負い搬送は今後の山行でも実演します。とてもシンプルかつ背負いやすい方法です。パーティに一つ有ると良いでしょう。

今回の講習には同志社大岳 WV 部員四名にも参加していただきました。これからも多くの若者を講習会に誘って入会を勧めたいと思います。

実施日：2022 年 2 月 27 日（日）

場 所：比良正面谷堂満ルンゼ下部堰堤周辺

参加者：松下征文（L）、村上 正、今中三恵子、

松下征悟、村松稜太、

（友の会）仲井照雄、上野陽子、中塚智子、

（一般）水波陽子、同志社大 WV4 名

健幸登山教室 12

釈迦岳ワンゲル道

今中三恵子

予定した方々が諸般の事情で不参加となり、講師の方 2 名、受講者 2 名 という贅沢な教室となりました。

前日は公園で日向ぼっこをするほどの陽気で、山の上も同様かと服装・装備を迷いましたが、念のために冬支度をしました。

8:20 イン谷口を出発。北方向への車道を少しあがった駐車場から、沢（イン谷）を渡り、ワンゲル道にはいった。ときに急坂を上り、雄松山荘からの道と合流した。シャクナゲに花芽がつき始めたが、今年は少ないとのことだった。雪が徐々に深くなり、かろうじてついていたわかんの後もほとんど消えていた。一步一步足が沈む。先頭の人に負荷がかかるようになった。これがラッセルときいた。後方から交代を提案され、受講者 2 名も一応参加させてもらった（何ごととも経験）。交代当初は真っ白な新雪の上を自分が開く気持ちよさに感動した。後ろの人のためにステップを作る、と教わるがそこまで余裕がなかった。やがて一步ごとに足を引き上げたいへんさが身に染みた。スケート競技のバシュートのように、先頭が交代して後方についた。

この日出会った唯一の登山者が後方から来て、先に進んだ。前方に急な斜面が見えた。イチョウガレというところ。岩と雪で、一部トラロープがあった。ここでアイゼンをつけ、ストックをピッケルに変えた。ピッケルの名称（ブレード、ピック、スピッツェ）と使い方を教わった。ここでは、ピックは深くささりすぎるのでブレードが向くときいた。えいっ！とふりかざす

とザクッと雪にはいりそっと体を引き上げた。岩やロープ、ピッケルの支点でなんとか通過できた。稜線では温度計が -4℃、風が強かった。

13:00 釈迦岳到着。山頂の標柱が膝より下にあった。ここからトレースがない。その先は、受講生で行ってみようとなった。が、私が先頭に行く短い間は、前を歩いているというだけでどちらに進むかは指示待ち状態になってしまった。まだまだです。

14:45 北比良峠 雪を被った老松が渋い。ここからダケ道を下った。落ち着いての昼食時間はなく、行動食のみ立ったまま捕食して行動するというのも初めてのことだった。行動食や飲み物の出しやすさ、小分けして短時間で食べやすくすることなども課題と思った。

16:30 イン谷口着。ラッセル、ピッケルの使用、ルートファインディング、行動食など、いろいろ体験でき、充実した講習となりました。ありがとうございました。

実施日：2022 年 3 月 6 日（日）

参加者：松下征文（L）、村上 正（SL）、田中佳洋、今中三恵子

平日例会山行

二の谷山△608m

田中昌二郎

お馴染みの坊村駐車場に 8 時 30 分に集合、R367 を北上して今津町途中谷、棕川分岐に駐車した。国道の東に塵焼却場の大きな建物があるのは艶消しだが、快晴、風もほとんどなく温かい。スタート 9 時、少し北へ進み、高島トレールの標識に従い、西側の杉の植林に入り、二ノ谷山頂上に向かって真北に伸びる尾根に取り付く。標高点 477m 辺りから残雪が出てきた。足首辺りまでもぐるが締まっていて歩きやすく、久しぶりの雪の感触がうれしい。手のひらのように開けている平坦な標高点 545 ピークでは、倒木が雪の下に隠れていて、ズボッと太ももまで潜る時もあり、コース取りに苦心した。この難所を過ぎるとそのあとは、雪を踏んでひたすら真北に進んで頂上についた（11 時 15 分）。二等三角点 点名 杉山村。保坂集落の西に「杉山」という字名がある。多分それに拠ったのであろう。頂上付近から見る湖北武奈ヶ岳は残雪を纏って立派だった。この山塊の盟主三重ヶ岳はのぞめなかった。風が強くなってきたので少し下って、鞍部手前の雪の消えた格好の場所を見つけて昼食をとった。

この山塊を眺めると、思い出が湧いてくる。

高校1年の春、山岳部の3人パーティーがスキーで三重ヶ岳を目指したが、予定の日を過ぎても帰ってこないの、急遽、先輩と二人で雪の角川集落まで入ったこと、中央分水嶺踏査の時、大御影山からあこがれの三重ヶ岳に達して湖北武奈ヶ岳から赤岩山を経てダムに下りた長い縦走のことなどを思い出していた。できる事なら天増川から三重ヶ岳に登りたいなど、妄想が湧いてくる。

下山は快調だった。・545付近の雪の下の倒木に気を付けて通過し、後は残雪をふんで愉しく下った。

R367の路傍にフキノトウが少し出ていたの、これはうれしい、今晚の酒の肴にと収穫して駐車地に着いたのは14時。天気は文句なしの晴天、行程もゆっくり目、残雪も味わえて文句なしに楽しい半日だった。

実施日：2022年3月24日（木）

参加者：田中昌二郎（L）、上田典子（SL）、竹下節子

【付記】

故磯部 純さんと共に巡った「平日例会山行」は、今回を持って終了となった。思い出は尽きないが、新たに始まる「北山探訪」を楽しみにしたい。



快晴の山頂付近で

山歩会例会

箕作山・太郎坊山

—岩峰と天狗信仰の山へ—

遠藤将一

3月22日は雨が予報されたので、30日に延期して実施された。

午前9時に近江鉄道の市辺駅に集まった10人は12月の忘年山行以来とあって期待に輝いていた。駅からちょっと戻って踏切を渡り、阿賀神社へ。175mの船岡山（丘）には万葉植物園と有名な額田王の”あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る”の歌碑がある。農道に下りて、貯水池を過ぎたところから獣除けのゲートを開けて登山口へ。「新四国八十八箇所霊場」の立て札があり、よく整備された石段に沿って小さな石仏（ナント160体！）が次々と現れた。上り詰めたところが岩戸山十三仏で、聖徳太子が山頂の巨岩に不動明王や釈迦如来などの菩薩十三体を自らの爪で刻んだと伝えられている（お堂で囲まれていて、お祭りの時にしか開かれない、残念！）。ここからは雑木林の尾根道で山城跡のある小脇山（373.4m）へ。3等三角点を前に記念撮影（写真）。30分アップダウンを繰り返して箕作山（372m）に到着。”あかねさす紫野行き・・・”の舞台となった蒲生野を見下ろしながらゆっくり昼食。その後、瓦屋寺と延命公園への道を左に分けて進み、太郎坊山への分岐を右に入る。最後の急な岩場を登って350mの太郎坊山（別名、赤神山）北峰に到着。すぐ真下にはご神体であるために登山禁止の南峰が見える。

分岐に戻って、元の道を太郎坊宮の境内に下り、高さ10mほどの夫婦岩の狭い隙間を通して本殿に詣でた。この岩の上が天狗の住処で、悪人が通ろうとすると割れ目が閉じて挟まれてしまうという伝説がある。太郎坊宮にお祀りする神様は伊勢神宮の天照大神の第一皇子神にあたり、その名前には勝利を象徴する意味が込められていて、勝利と幸福を授ける神様として信仰されている。古くは、聖徳太子、伝教大師最澄や源義経、室町幕府近江守護職佐々木六角氏などの尊崇を集めたとされる。七百段の階段で成願寺に下り、岩山をバックにした荘厳な太郎坊宮を振り仰ぎながら参道を太郎坊宮前駅に向かった。仏教と神道の宗教ずくめのコースで身を清められた山行だった。近江八幡駅階段下の居酒屋で精進落としをしながら、山歩会を立ち上げ長くリーダーを務めていただいた鮎川さんを偲びました。私の孫（4月から高1と小4）の参加を認めていただき有難うございました。面白かったと親に話したそうです。

コースタイム

近江鉄道・市辺駅(9:00)―岩戸山(10:31)―小脇山(11:13)―箕作山(11:40～12:30)―太郎坊山(赤神山)北峰(12:55)―太郎坊宮(13:30)―成願寺(14:06)―太郎坊宮前駅(14:20)

実施日：2022年3月30日(水) 晴れ

参加者：中川 寛(L)、大倉寛治郎(SL)、奥 克彦、竹下節子、西田 均、山口基継、遠藤将一、(友の会)川崎紀久子、京極明美、馬場信枝、(一般)中野克己、中野陽花



小脇山の三角点を囲んで

巨木探訪

自然保護部会3月例会

中川 寛

小雨降る中、8:30 四条大宮に集合。今日は湖南省、信楽方面の巨木を探訪する。霧のかかった名神高速を八日市ICまで走り、水口町泉にある最初の巨木「泉のカヤ」を訪ねる。

水口町の古木・名木に登録されているカヤは天台宗泉福寺境内にあり、幹回り5m、樹高19m。泉福寺は、弘安2年(813年)伝教大師開創の古刹で、同じ敷地内に護法神として日吉神社があり、同じ境内にあるケヤキクスノキも中々風格のある巨木で、クスノキは幹回り5m、樹高33m。

次は、湖南省吉永の「弘法杉」を訪ねる。目的の吉見神社に着き参道の階段を登っていくと、清掃作業をしておられる方がおられ、「弘法杉」はこの神社ではなく、もう少し先の天井川の堤にありますよとのこと。教えられた道を行くと、旧東海道を横切る大沙川堤上にあった。立派な説明板があり、甲西町指定文化財で幹回り6m、樹齢750年とのこと。伝説によると、弘法

大師がこの地方を通過した時、二本の木を植えたとも、また食事をしたあとお箸を差しておいたのが芽を出したともいわれている。その後、大風のために折れて朽ちたので、里人が再び植えたが、安永2年(1773年)の台風でそのうちの一本が倒れたとのこと。この杉の枝で箸を作って子に使わせると、左手で箸を持つ子も、右手で持つようになるとの伝承もあるようだ。

続いては信楽町にある「玉桂寺のコウヤマキ」。玉桂寺は天平宝字5年(761年)創建の保良寺を前身とする古刹で、弘法大師がこの地に來られた時、コウヤマキを植えたという伝説があり滋賀県指定天然記念物となっている。コウヤマキは、山門を入れて正面にある石段の両側に生い茂っているが、左右に一株ずつ植えられた親株から種により円状に繁殖し、第二世代、第三世代の新株が生まれたものである。左の株群は43株、右の株群は22株まで増えている。左主幹は幹回り6.1m、樹高31.5m、右主幹は幹回り3.5m、樹高26.5mとの説明があった。コウヤマキの群生は見応えがあった。

玉桂寺のすぐ近くにある「天神神社の杉」を続いて訪れた。天神神社は、淳仁天皇が天平宝字5年(761年)にこの地に保良の宮を造営した時、大日貴命(おなむちのみこと)と高皇産霊命(たかみむすびのみこと)の二神を祀ったもので、天満宮とは異なる。杉は、神社入り口の鳥居から本殿までの参道にあり、幹回り6.5m、樹高40m、推定樹齢600年で地上3mほどで2本に分岐して伸びていた。



柞原八坂神社のケヤキ

次は、信楽町柞原にある「八坂神社のケヤキ」を訪ねる。途中立ち寄ったレストランで自家製カレーライスを食べたが、コーヒー付で700円は値打ちがあった。鳥居から社殿まで長い参道があり、その途中にケヤキの巨木がある。幹回り5.5m、樹高25mの立派なケヤキで、根が参道に沿って長く伸びており力強かった。

最後に訪れたのは、猪背山の麓信楽町宮尻の「大宮神社の杉」。大宮神社は、弘仁9年(818年)に創建されたと伝わる神社で、近くには集落もない場所にあるが、きれいに清掃されており、清々しい雰囲気が漂っていた。境内には杉の巨木が複数あり、拝殿前の杉がもっとも大きく幹回り6m、樹高40mの巨木で樹勢も盛んであった。

帰りは宇治から山科を抜け、四条大宮へと戻った。

実施日：2022年3月31日(木)

参加者：山村孝夫(L)、岡田茂久、柏木俊二、方山宗子、
中川 寛

健幸登山教室 1

堂満岳

村松稜太

前夜はあまり眠れなかった。起きてからは時間が無かったので急いで準備して電車に間に合うように全力疾走した。寝起きで寝不足の中突然体力を使うことになりキツかった。

駅のホームまで発車3分前くらいに到着し、すぐそばにあった自販機でシュークリームを買ってから電車に飛び乗った。そしてすぐにシュークリームを頬張った。

電車が湖西線をしばらく進むと比良山地が見えてきた。ほとんど雪は溶けていたが、蓬萊山と比良岳の間にある峠だけは雪で覆われていた。松下さんと上野さんとは志賀駅で降りる直前に電車内で合流した。

志賀駅を出ると土井さんが車でロータリーに来ていた。車には他に奥さんと二頭の犬が乗っていた。二頭の犬は中々心を開いてくれないようで、我々に向かってずっと吠えていた。我々は予定通りに行程を始めた。

道中では地図の見方について教わった。まずコンパスを使って登山道がどの方向を向いているのかを割り出す。次に地図上の登山道の向きや周りの地形、沢や川の場合、周辺が針葉樹林か落葉樹林かなどを加味すると自分のおおその地点を割り出す事が出来ると教わった。慣れない作業だったので初めは土井さんに聞かれても位置を特定出来なかったが、徐々に特定出来

るようになって来た。

また、様々な植物についても教わった。植物関連で一番印象的だったのは松下さんが椿の蜜を沢山吸っていた事だ。花だけ引っこ抜いて裏から吸うのである。私もやってみたが、一緒に蟻のような虫が口の中に入ってきた。そして勢いで嘔み潰してしまった。すぐに口から出したが、明らかに花のものではない酸味を含んだ甘い味が口に残った。今度からは虫がいるか確認してからやろうと思う。他にも花びらを天麩羅にするとおいしいというタムシバ、「少々馬鹿」で覚えやすいショウジョウバカマ、小さな白い花を咲かせるバイカオウレンなど山ならではの個性的な植物について多く知る事が出来た。今まで山の植物に触れてこなかったので新鮮な楽しさがあった。

荒川峠から稜線に出てしばらく歩くうちに金糞峠と堂満岳との分岐点に着いた。当初は金糞峠へ向かう計画であったが、松下さんが堂満岳に行くことを提案してくれて行く事になった。分岐からは20分ほどで山頂に出れた。山頂に辿り着くと琵琶湖が前面に見える見晴らしの良い景色が広がっていた。話に聞くと伐採されて以前より良い景色になったらしい。さらに蕾がたくさんついているシャクナゲの木があった。道中ではほとんど蕾をつけた木がなかったので見れてよかった。

今度は山頂からイン谷口まで堂満東稜道を通るのが、出だしは本当に急だった。下りが苦手な僕はヒヤヒヤの連続であった。しばらく下って平らな場所に出たところでロープワークについて教わった。

ロープワークは自分で行うのは初めてだった。今回はあまり難しいものは習わなかったが、咄嗟にやるためには慣れが必要なので定期的に練習したいと思う。また、ロープの結び方は一つ前の健幸登山教室で習ってしばらく経っていたので事前に予習をしておいたのだが、まだまだ素早く結べないレベルであった。松下さんにコツを教わったので、慣れていきたいと思う。

全体を通して、とても有意義な山行でした。読図やロープワーク、植物の知識をアップデート出来ました。これらの知識を活用できるようにさらに精進したいと思います。それと今度は夜しっかり睡眠とって参加したいと思います(笑)

ルート：JR 湖西線志賀駅 8:10 発→中谷会下→大岩谷分岐→荒川峠→南比良峠→堂満岳→堂満東稜道→ノタノホリ→JR 湖西線比良駅 17:06 発

実施日：2022年4月10日(日)

参加者：松下征文(L)、土井文雄、上野陽子、
松下征悟、村松稜太

近畿2府4県の低山一等三角点を登る

播州 城山（点名：志方城山）

岡田茂久

播磨地域は兵庫県西部に位置し主要街道である山陽道が通じ、北は但馬地方、西は岡山・鳥取両県境、東は神戸市の一部を包含する広大な地域である。

播磨地域の北辺は中国山地の東の端にあたり、播但山地を形成する藤無山・笠形山・段ヶ峰・千町ヶ峰等1000m程度の山並みが連り、播州平野を流れる千草川・揖保川・夢前川・市川等の源流となっている。上流部は急峻な山地部であり、中流部は吉備高原という地域にあたり、西播山地という小起伏の標高300mから500mの山地となり、西播山地の南麓にあたる地域は西播丘陵という標高300m以下の小丘陵が、豊かに広がる播州平野の中に点在している。広大な播州平野には往古から群雄が割拠していたが、それら小丘陵は平野の中で突出して展望が良く、見晴らしが利くこともあり多くの山城が設けられていた。

中でも鎌倉時代後半から南北朝時代・室町時代にかけて播州に盤踞していたのは、赤松則村（後に出家し円心入道）という武将に代表される赤松一族で、地の利を生かして中国地方の木材や薪炭・鉄等の資材流通を図ることで力を付けた豪族である。赤松則村は当初は鎌倉幕府の御家人で播磨佐用庄の地頭であったが、後醍醐天皇の皇子である護良親王の令旨を受けて鎌倉幕府討伐に応じ、天皇親政の「建武中興」に大いに参与したが、武士を軽んじる体制に失望し反旗を挙げた足利尊氏に隷属する。反旗を上げるも一旦は破れて九州に逃れ、体制を立て直した尊氏が上洛するという報に、新田義貞の指揮のもとに数万の追討軍が西下してきたが、赤松則村が西播山地に位置する要害「白幡城」にわずか2000人の兵で立て籠もり50日余りも追討軍を足止めする。怒涛の進撃をしてきた足利尊氏軍と合流すると、神戸湊川において後醍醐天皇忠臣の楠木正成を敗死させ、ついには天皇をも吉野に押し込め、南北朝時代を経て室町幕府成立の先駆けを務め、播磨、美作、摂津の守護大名にまでなった一族である。

西播山地と西播丘陵にある山城は赤松氏代々が関連するものが多く、そのなかでも上郡の「白旗山（点名：白旗山）白幡城址」440.25m。揖保郡太子町の「白山（点名：大山）楯岩城址」250.7m。加古川市志方町の「城山（点名：志方城山）中道子山城址」271.21mの三城址もが、当時代から500余年後の明治の時代に、一等三角点に選定されるとは赤松一族には思いもよらないことであろう。一等三角点だけでなく二等・三等・四等三角

点まで調査すれば、もっと多くの赤松一族の三角点のある山城址があることは間違いない。

今年度の京滋支部例会に、新シリーズとして「近畿2府4県の低山一等三角点を登る」が企画され、初回到城山（点名：志方城山）別名中道子山城址が選ばれた。太平記には赤松則村が鎌倉幕府六波羅攻略に当たり、当方の地元の桂・久我縄手・西の岡等に陣を敷いて桂川渡河に苦戦した記述もあり、赤松一族関連の播州の山城には以前からいささか関心を持っていたものである。

2022年4月10日、京都駅八条口「都ホテル京都八条」前集合。参加者8名が2台の車に分乗し名神高速京都南ICに向けて（8:00）出発。天候は上々の晴天である。高槻から新名神に入り宝塚北SAで休憩、休日というのにコロナの関連か以外に空いている。（9:50）加古川北ICで高速を出て直ぐ（9:55）には志方城址登山口の駐車場に到着。無料で10台程度駐車可能な場所だが、既に前置車があり分散して駐車。駐車場の前は荒れた小公園であるが、散り始めた桜の下に小さな鳥居と石の祠があり前途に期待を持たせる佇まいである。

（10:05）車進入防止に路面に三角の金網を置いたゲートを跨ぎ舗装された林道を登る。林道右下は肥料の製造工場らしくファンが悪臭を振りまいており、いささか訪城者の興を損なっているのが惜しい。（10:20）旧登山路分岐に到着。旧登山路を見上げると奇岩が覆いかぶさるように屹立している。毘沙門岩と案内板にあり威圧するような様相から当を得た名と感心する。（10:30）舗装林道には山頂まで1kmの新登山路の案内表示があり、旧登山路から登って新登山路を周回することになる。旧道は毘沙門岩の上部に回り込むように登山路が伸びており、途中で小毘沙門岩（クサリ場コース）が分岐する。やや急坂であるが高度100mも登れば、山腹をトラバースするようになり先に分岐したクサリ場コースが合流する。（11:00）大手門跡に出て林道を經由してきた新登山道と合流。広くなった登山路の槽



一等三角点志方城山を囲んで

台跡を過ぎると二の丸であるが、二の丸の南端に大きな電波反射板が建てられているのは、史跡としては無神経極まりない光景である。本丸領域に入ると東屋が建てられており、次いで周りを石垣で囲まれた広い米蔵跡がある。往古、この城が攻められたときに竹の皮を登城路に敷き敵兵が滑るように仕掛けたが、逆に火を付けられるという始末となり、貯蔵の米を散いて消火したが落城したという伝承がある。こんなに豊富な食料があるんだと、鯛を掲げて敵兵に見せたというような伝承もあるが、いささか間が抜けた話。「朝日さす、夕日輝く木の下に、黄金千杯……」等の伝承も多くの地方によくある話だ。

一段高い本丸跡への城門跡には「蟬しぐれ古城をあらく子らのぼる 荒磯」の歌碑がある。荒磯とは地元の歌人らしい。(11:05) 本丸跡到着。東西 80m 南北 40m ほどの削平地で東と北方面の展望が大きく開け、きれいに整地・草刈りがされている。西端寄りに「赤松城址」の大きな碑があり、その前に「一等三角点：志方城山」がでんと座っており、暖かい春の日差しに白く輝いていた。その脇の三角点標識をしのぐ大きな保護石が目を引く。本丸広場にはまだ桜の花が咲き残り、地面にはタンポポとスマレが咲き春爛漫の別天地の様相である。少し早い三々五々のんびりと昼食を済ませる。(12:10) 本丸跡から退出し本丸南の高台へ向かう。

途中の東屋の裏に金網で囲った「井戸跡」があったが今でも湧水があるようだ。南の高台から北西の三の丸に掛けて四国八十八ヶ所の小祠が祀られている。一回りしてみると南の高台には「赤松円心入道」の新しい顕彰碑が立っていた。大手門跡に戻ってきたが、下山する新登山路の脇の「空の小道」という小標識に誘われ進入してしまう。ここでは思わぬ大展望が待っていた。遠く播磨灘がキラキラと白く輝き、右手の彼方には高御座山の鋭鋒まで望まれ、足元は山麓まで遮るものも無い。パラグライダーのテイクオフ場であった。思わず飛び出したい衝動に駆られる (12:30 ~ 35)。

空の小道に続く急坂の尾根道を降ると、舗装林道の終点で新登山路と合流 (12:40 ~ 45)。

林道の下りは早い。途中に竹藪に囲まれたパラグライダーランディング場があったが、こんな狭い場所にうまく降りられるのか心配になる。駐車場には (13:05) に着き 10 分ほどで出発。加古川北 IC (13:20)。宝塚北 SA で休憩 (14:00 ~ 20)。京都南 IC 到着 (15:35)。京都八条口乗降場 (16:00) に解散する。運転お疲れさまでした。

実施日：2022 年 4 月 10 日 (日)

参加者：大槻雅弘 (L)、大倉寛治郎、岡田茂久、

中川 寛、幣内規男、山崎 泉、
(友の会)、川寄紀久子、藤綱珠代

北山探訪

伊賀谷山(霞ヶ岳)

笠谷 茂

2022 年度の山行新企画として「北山探訪」を立ち上げた。キャッチフレーズは「原点の山に新しい愉しみを求めて」。山域は京都北山を中心にするが、広い意味で捉え厳密な定義は行わない(湖北等もあり)。マイナーピークを目指したり、平日のより静かな環境を求めたり、この山域らしさを堪能あるいは再発見したい。

その第 1 弾として早春の伊賀谷山(900.5m、基準点名：霞ヶ岳)を目指し、葛川中村町(江賀谷の安曇川合流点)より伊賀谷山、県境尾根、八丁平、中村乗越を経て、江賀谷右股を下る周回コースを計画した。

積雪が多かった冬も終わり、雪解けは進み春が北山を駆け上がっている頃。早春のマイナーピークはどんな表情をしているかと思いを馳せる。当初の週間天気予報では、雨の確率が高いという中、南海上には台風 1 号が発生し湿った南風が悪天をもたらすかと不安がよぎったが、日が進むにつれ晴天予報に変化していく。そして当日は暑くもなく日差しが注ぎそよ風が吹く絶好の登山日和となった。

4 月 12 日(火)、坊村駐車場に 8 時集合。ここから車 2 台に分乗し桜が満開の葛川小中学校の北側を通り、江賀谷の最初の堰堤前にある駐車スペースに移動。

8 時 25 分、登山口。準備を整え出発。木々に新芽が萌え始めた伊賀谷山への尾根に取付く。高度差 30m ほどの急峻な登りのあとは、左手は植林帯、右手は自然林、落ち葉が積もった尾根を南西方向に登っていく。そして登るに従い、木々は季節を逆戻りし色褪せていく。馬酔木の緑葉だけが目立つ中、落ち葉積もる足元に茶色がかった白い花びらが目に留まる。見上げるとタムシバが僅かに花びらを残こして新芽を膨らませていた。

9 時 20 分、C640。尾根上は歩きやすく徐々に高度を上げて行き、左手(東側)には蓬萊山を中心に比良山系南部の峰々が時々顔を出す。タムシバは花の輝きを増してくる。その姿は右手(西側)の眼下に江賀谷を挟み県境稜線に続く落葉樹林の山腹にも綿毛のように点在している。これより先の標高域はタムシバ満開の季節だ。足元には、イワウチワの群生が現れ花を咲かせている。やがて県境稜線の背後に峰床山が顔を出す。斜面を登り切ると伊賀谷山頂上だ。



伊賀谷山（基準点名：霞ヶ岳）にて

10時15分、伊賀谷山到着。台形状ピークの北隅に明治23年設置の三角点が鎮座している。シジウカラがさえずる静かな山頂で記念撮影と展望を楽しむ。

10時40分、出発。ピークの南端を過ぎると稜線の通過には問題がないが西側斜面に大きな崩壊地がある。899ピークとの鞍部への降り口は、西北西の小さな枝尾根に入りやすいので注意を要する。

11時20分、899ピーク。落葉広葉樹が取り囲む広い山頂、新芽が膨らみ始めた時候にあり展望も望めた。新葉の季節までは皆子山が間近に望める。気温が上がりはじめたが、そよ風が心地よい。ここから、県境尾根までの区間は圧巻の「期間限定タムシバ街道」。北側に県境稜線の914ピーク、その斜面の落葉樹林帯に真綿を散らしたように純白のタムシバが集う。県境尾根への登りで背後を振り返ると伊賀谷山、899ピーク。その間に蓬萊山がのぞく。

12時15分、県境尾根ピーク。ここで昼食。どの方向を見ても穏やかな景色が広がる。心地よいひと時を過ごす。

12時55分、出発。県境尾根を西に下り、最初の鞍部から沢筋を下る。途中僅かであるが残雪あり。尾越へつながら林道に合流し、八丁平から流れ出る江賀谷左俣源流に沿って八丁平へ向かう。タムシバが輝く柔らかな山腹に囲まれた静かな広く明るく緩やかな川辺の歩道を行く中、メンバーの各々が昔来た時との違いを感じていたようだ。

13時30分、八丁平から中村への分岐。乗越への登り返しで振り返ると、姿を変えゆく八丁平を取り囲む峰床山を頂点とした山腹を純白のタムシバが飾っていた。

13時50分、中村乗越。江賀谷右股に向け細いがしっかりとした登山道を下る。途中、尾根筋への踏み跡に入らないよう注意が必要だ。

14時28分、江賀谷C680。登山道の道標に従い沢に沿って下る。いつしかタムシバは見当たらなくなって

いた。

15時10分、林道終点。谷は左俣（本流）に合流し水量も増す。その豊かな流れに沿って林道を下る。最後のピッチ、余韻に浸りながらの足取りは軽かった。

15時50分、登山口（下山）。登り始めの急登地点を前に、伊賀谷山周回コースの輪が閉じた。葛川小中学校の桜は散り始めていた。季節は1日進んでいた。

伊賀谷山を囲む落葉広葉樹の森は残雪の白が消え萌え色に染まるまでの狭間にあり、タムシバの純白が輝いていた。その美しさに圧倒されながら、近場でこんな素敵な山があったことを再発見できた素晴らしい山行であった。

実施日：2022年4月12日（火）

参加者：笠谷 茂（L）、田中昌二郎（SL）、上田典子、竹下節子、八木 透、（友の会）中塚智子



タムシバの純白が醸し出す早春の彩り
（期間限定タムシバ街道）

山のスケッチ

太郎坊山

山田和男

スケッチ実施日の前は相変わらず天気予報が気になる。10日、一週間予報では雨だったが前日には早朝まで雨が降るが朝方より晴という予報に安心してスケッチに出かける用意をする。

スケッチ対象の山を探すには近郊の山で下手な私でも個性を表現できる山が条件である。さんざん迷っているときTVで太郎坊山が放送された。この山なら岩が露出し広葉樹、針葉樹を描き分ける山と違うので絵にしやすいと思い決定した。

太郎坊山、太郎坊は天狗の名で以前京都支部が愛宕

山を三方向から登り、戦国時代伊達政宗の重臣片倉小十郎重綱が奉納した巨大な愛宕太郎坊の絵馬を、奉納400年を記念して愛宕研究会が複製したものの披露に立ち会ったことが有る。この太郎坊も天狗でその関係は如何なるものであるのか知りたいものだ。

前夜より雨が降っていたが止むことを確信し、就寝。朝雨は止みそうだがまだ降っている。スケッチ用具をカバンに詰め出かけるがバスに乗りそびれ車で行く。高速を降り田園の中に三角の山が見えてきた。予想していたより木が育ったのか岩の部分が少ない。しかしまだ小雨が降り肌寒い。スケッチには悪条件ばかりが気になる。集合場所の近江鉄道太郎坊宮駅に着いた。しばらくすると松田先生が、そして近江鉄道の電車から三人が降りてこられた。(この電車に私も乗りたかった)そしていつものように初参加の上野さん中心に互いに挨拶をした。

スケッチは駅と神社の中間の畑の畦に陣取り少し寒さを感じながら始めた。段々と空が青くなり、新緑が美しくサクラのピンクも見える。岩は描き始めたころは暗い灰色だったのが白く輝き始めた。しかし山は順光のせいか影が少なく立体感を表現しづらい。自分の下手さにぶつぶつ文句を言いながら約2時間描いていた。もう少し描きたそうな人もいたが駅舎の屋根の下に移り弁当を食べ、いつものように先生が大奮闘、私たちの絵を講評し、よりスケッチらしくするための技法を実際の用具を使って指導していただいた。先生ありがとうございました。ご苦労様でした。

実施日：2022年4月22日(金)

参加者：松田敏男(講師)、宇都宮道人、中川 寛、
山田和男、(準会員)上野陽子

未知の山旅シリーズ(第10回)

南九州の山

笠谷 茂

2021年度の未知の山旅シリーズは、4月(第8回)、10月(第9回)ともにコロナ禍の影響で中止となり、1年半ぶりの実施となった。今回は宮崎までの往復にフェリーを活用する形で南九州方面への山旅を計画、ダイナミックな火山地形、豊かな植生、山の深さ、歴史など“南九州”を感じたいと考え、目標の山として韓国岳、白髪岳、米良三山(市房山、石堂山、天包山)を選定した。

一部天候が崩れる状況もあったが、5山中4山の登

頂を含め、早春の“南九州”を実感することができた。
費用@7.0万円/人(食費除く)。

<予定ルート>

4月21日：移動(滋賀・京都⇒神戸三宮フェリーターミナル、宮崎行きフェリー乗船)

4月22日：宮崎港フェリーターミナル⇒えびの高原⇒韓国岳(つつじが丘周回コース、L：竹下)⇒京町温泉(泊)

4月23日：京町温泉⇒白髪岳(新登山口⇒白髪岳⇒陀来水岳⇒新登山口、L：須藤)⇒西米良温泉(泊)

4月24日：西米良温泉⇒石堂山(6合目登山口から往復、L：笠谷)⇒天包山(西南戦争之碑から周回、L：笠谷)⇒西米良温泉(泊)

4月25日：西米良温泉⇒市房山(5合目登山口から往復、L：関本)⇒西米良温泉⇒宮崎港フェリーターミナル(神戸行きフェリー乗船)

4月26日：移動(神戸三宮フェリーターミナル⇒京都・滋賀)

<天候などを考慮した予備ルート>

白鳥山(えびの高原から往復、L：竹下)

地藏岳(地藏岳登山口から往復、L：笠谷)

韓国岳(えびの高原から往復、L：竹下)

以下、実際の行動を紹介する。

4月21日(移動)：滋賀・京都⇒神戸フェリーターミナル(宮崎行きフェリー乗船)

11時にJR南草津駅近くでレンタカーを借りる。今回は新車(走行距離17km)が当たり、それなりに気は使うが気分は良好。幸先の良いスタートとなった。滋賀から京都へメンバーを順次ピックアップし神戸三宮フェリーターミナルへ向かう。シニア割引での乗船手続きを済ませフェリーに乗り込む。19時10分、宮崎に向け出港。船は空いており二等寝台の12人部屋は我々4名のみでの利用であった。

4月22日(韓国岳)：宮崎港フェリーターミナル⇒えびの高原⇒韓国岳(つつじが丘周回コース)⇒えびの高原⇒京町温泉(泊)

前日の雨は上がり雲が切れゆく中、定刻の8時40分に宮崎港フェリーターミナルに着岸。えびのスカイラインが硫黄山周辺立入規制の影響で一部(甕岳登山道入口⇒えびの高原)通行止めとなっており、国道268号線を野尻より分岐し霧島バードライン(国道223号線)経由でえびの高原に向かう。分岐後車窓の正面に小林盆地越しに望む霧島連峰は絶景であった。また、御池からの成層火山高千穂峰には美しく気高い雰囲気を感じた。11時15分、えびの高原駐車場(標高

1190m) 着。硫黄山からの白煙、韓国岳火口丘を望みながら早めの昼食をとり出発する(11時50分)。硫黄山の活動に伴い南側に迂回する登山道を進み高度を上げる。硫黄山展望所からは幾つもの噴気を上げる直下の硫黄山と背後には甑岳、白鳥山など火山の造形が広がる。また、今回予定の白髪岳、市房山、石堂山も同定できた。新しい休憩所が設置された5合目では展望が大きく開け、大浪池の湖面が顔をだす。背後には錦江湾に桜島が浮かぶ。火口丘に沿って高度を上げると8合目で火口丘上部に達し、直径900mの御鉢の全貌が現れる。その最高点が頂上だ。13時40分、韓国岳頂上。一等三角点(点名:西霧島山、1700.1m)がある山頂は圧巻の三重奏だ。眼下の巨大火口(直径900m、深さ280m)、黒々とした溶岩をまとう噴火を繰り返す新燃岳と背後の高千穂峰の秀麗な姿、そして南九州360度の大展望。登山者の姿も少なくなる中、高千穂連峰最高峰の頂上を後にする(14時00分)。火口壁に囲まれた丸い湖面にさざなみを揺らす大浪池を眼下に標高差350mを一気に下る。避難小屋のある大浪池分岐からは韓国岳の裾に刻まれた小さな沢を越える登り返しを繰り返して進む。つつじが丘から振り返り仰いだ韓国岳はたおやかさを感じた。16時05分、えびの高原駐車場(下山)。

えびの市内へ霧島バードライン(県道30号線)を下りえびの市内の京町温泉玉泉館へ。天候も下り坂で頂上付近は既に雲で覆われていた。やさしいアルカリ単純泉にて汗を流し、山行初日の火山活動により生まれた絶景を肴に食事が進んだ。



新燃岳と高千穂峰(韓国岳より)

4月23日(白髪岳):京町温泉⇒新登山口⇒白髪岳⇒新登山口⇒西米良温泉(コテージ泊)

雨の降り始めが早まり、午後には本格的な雨となる天気予報のもと、7時からの朝食を頂き、7時50分出発。国道221号線にて宮崎県から矢岳高原をえびのループ橋、加久藤トンネル、人吉ループ橋で熊本県へと越え、榎田大川筋林道(入口に白髪岳登山口を示す看板あり)

に入り、舗装された林道を登る。9時15分、白髪岳新登山口(標高1120m)着。「白髪岳自然環境保全地域」を示す環境省と熊本県名の大きな看板があり、ここのブナ林は「我が国におけるほぼ南限に近い」と記されている。雨はまだ降っていなかったが、陀来水岳周回を行わず、天候を見て往路を下山することとし、9時30分出発。藪椿のトンネルをくぐるとシキビを中心とした常緑樹が茂る森となる。足元にはバイケイソウが群落を作っている。9時45分、2合目で雨粒を感じたので雨具着用。ブナが姿を現す。10時00分、三等三角点のある猪ノ子伏(点名:猪ノ子伏、1233.3m)で休憩。ここからはなだらかな広い尾根筋の樹林帯を進む。登山道に大きなタヌキが現れる場面もあった。木々には樹木名を記したプレートが散見され、会話が弾む。10時40分、C1313、休憩。ブナ林が広がる中「ブナ群落地南限」の標識がある。11時08分、三池神社(1365m)。雨は本降りとなってきたが、頂上まで行くこととする。やがて視界が開け、11時30分、白髪岳頂上着。一等三角点(点名:白髪岳、1416.7m)のある広い山頂。雨と薄いガスで展望は望めない中、記念撮影を手短に行い下山の途へ(11時50分)。なだらかな広い尾根筋の樹林帯に延びる往路を引き返す。13時30分、新登山口(下山)。

国道219号線にて県境を越え、宮崎県に入る。15時、西米良温泉着。雨は降り続いていた。温泉に併設するカリコボーズの宿(コテージ)泊。まろやかで肌にシットリと染み入るナトリウム炭酸水素塩温泉で汗を流す。翌日の天気は明け方激しい雨となり午前中は雨の予報。石堂山(1547.0m)は中止とし、天候の回復を待つて天包山を目指すこととする。



バイケイソウ群落のある南限のブナ群生林(白髪岳)

4月24日(天包山):西米良温泉⇒西南戦争之碑⇒天包山⇒西南戦争之碑⇒西米良温泉(コテージ泊)

雨も上がった昼食後、12時30分、天包山に向けコテージ(C210m)出発。殿様街道、花街道と名がつく舗装林道を駆け上がる。13時03分、西南戦争之碑前

駐車場（C970m）着。碑文によれば、明治10年2月に薩摩藩士族が起こした西南戦争において旧領主菊池則忠公率いる米良隊は薩軍に参加、米良での戦いは5月から7月にわたって村内各地でくりひろげられ、天包山一帯では山頂の官軍に対し薩軍が攻撃、戦いは熾烈を極め中腹の「坊主岩」には今もその弾痕を見ることができるという。13時20分、出発。擬木で階段状に整備された登山道を進む。13時25分、坊主岩着。苔むす岩肌に幾つかの弾痕と思われる窪みが確認できた。14時00分、三等三角点（点名：天包、1188.8m）のある天包山頂上着。3基ある電波塔の内1基は休止状態で中段まで階段が開放されている。雨は上がっていたがガスが残り展望は望めなかった。14時30分、頂上を後にする。つつじ咲く林道を下り15時00分、駐車場に戻る（下山）。

西南戦争之碑前で改めて山深いこの地で145年前に起きた出来事に思いを馳せ、西米良温泉に戻る。翌日の天気は晴れ、午後から下り坂の予報。市房山への期待が膨らむ。



弾痕残る坊主岩（天包山）

4月25日（市房山）：西米良温泉⇒5合目登山口⇒市房山⇒5合目登山口⇒西米良温泉⇒宮崎港フェリーターミナル（神戸行きフェリー乗船）

荷物をまとめ7時にコテージを出発。7時40分、快晴の市房山5合目登山口駐車場（C985m）着。7時53分、出発。登山道は市房山山頂から南に続く尾根筋で広い林道に出会う。正面に見える尾根に沿って登っていく。林道から外れ樹林帯の歩きやすい登山道を進むと再び林道が現れる。林道に面して7合目の小屋（トイレあり）が建っている（8時25分）。地形図を見ると近くに三角点があるので探してみると、小屋の脇に四等三角点（点名：田出之川原、1116.1m）があった。ここからは登山道を進む。中高木が少なくなり馬酔木が目立ってくると展望も開けてくる。9時15分、8合目。東側には昨日登れなかった石堂山が堂々とした姿を見せる。その先には電波塔がある天包山が確認できる。南西方

向には白髪岳、その背後には上部に雲がかかり始めた高千穂連峰が聳える。更に高度を上げると馬酔木の花房に囲まれ、ピンクの花を纏ったアケボノツツジが所々に現れる。10時30分、一等三角点（点名：市房山、1720.5m）のある市房山頂上着。360度の大展望が広がる。遠く雲仙普賢岳も確認できた。11時10分、往路を下山の途につく。13時00分、5合目登山口に無事戻る（下山）。頂上は雲に隠れていた。南九州の最高峰は我々には微笑んでくれた。

帰路、西米良温泉に立ち寄り入浴後、国道219号線にて宮崎市内へ。17時、宮崎港フェリーターミナル着。17時30分、乗船手続きを済ませ4月15日から就航が開始された新船「フェリーたちほ」に乗船。19時10分、神戸に向けて出港。行き同様フェリーは空いており20人定員のドミトリールームに乗客は我々のみであった。レストランで夕食後、全員爆睡した。



市房山頂上にて

4月26日（移動）：神戸フェリーターミナル⇒京都・滋賀

7時30分、神戸港フェリーターミナルに着岸。

西宮ICから名神高速道路にて京都に戻り、順番に解散。新車のレンタカーを返却し今回の山旅は終了した。笠谷（記）

実施日：2022年4月21日（木）～26日（火）

参加者：笠谷 茂（PL）、関本俊雄、須藤邦裕、竹下節子

PL：Planning Leader（日程管理など山行全体のマネジメント）

JAN雪崩講習を受講

土井文雄

3月2日、3日に日本雪崩ネットワーク（JAN）主催の雪崩講習、セイフティキャンプを受講しました。開催地は新潟県妙高市。日帰り温泉施設である妙高アルペンブリックのリラックスルーム。受講者28名、講師5名で9時より机上講習がスタート。

予めE-ラーニングにて雪崩に関する基本的な用語、知識を学び、またテキストは2017年に改訂となった「雪崩リスク軽減の手引き」を事前購入。テキストに沿って雪崩事故の実態、現象、地形、山岳地帯の積雪、安全行動、捜索救助方法などを進めていきました。特に雪崩誘発の仕組み、発生しやすい気象条件や地形については詳しく説明がありました。雪崩発生場所の写真、発生の可能性が高い場所などの写真を見せてグループごとに討議発表するスタイル。説明を聞き学ぶのではなく、自分で考えて自然界に潜むリスクを探し出すので受講者の皆さんも真剣です。

その他にも入山までの準備、当日の準備などもグループ討議で発表。年齢の若いスキーヤー、スノーボーダーが多く、現地の状況を知る為の情報ツールとして、ローカルのインスタ、ツイッターの活用という今の時代ならではの手法も。現地の最新状況を知るには良い方法だと感じました。

午後からは近くのグランドで積雪観察、プローブ操作、ビーコンの捜索方法、ショベル動作の基礎的な部分を講師を務める山岳ガイドから学びます。

最新のビーコンでは表示距離が最長50～70mというのが主流ですが実際に使ってみると30m以上では表示される距離、方向も不安定で正確な位置は直ぐには特定し難いというのが実感できました。講習会場に戻って雪崩のリスクを回避するための基本行動を学び、一日目は終了。

二日目は妙高杉の原スキー場に集合。ゴンドラ、リフトを使いゲレンデトップからシールを付けてハイクアップスタート。天候は風速6～10m/S、気温1℃、雪がちらつく程度でまあまあのコンディション。

初心者グループ1組、経験者は2組に分かれてグループ行動。ハイクアップの中で地形を意識して積雪の変化を足裏で感じ、どこにリスクが潜んでいるかを常に意識して行動します。標高1970m付近で積雪観察を開始。二人一組に分かれて深さ130cm、幅200cmのピットを作成し雪質、弱層、雪の硬さ、滑り面の有無等詳細に観察。雪の中に潜むリスクを知る術を学ぶ事で初

めてリスクを理解出来ると実感しました。今回の積雪はとても安定して雪崩リスクは低いコンディション。

午後は模擬捜索を2回。4名が雪崩に巻き込まれたという想定で受講者9名が捜索開始。教わった基本動作と行動でいずれも15分以内に雪中に埋めたビーコンを全て回収できました。しかし、実際には救出した後の怪我の手当、救命措置等やるべき事がたくさんある。代表の出川氏曰く、「複数の埋没者がいる現場で全員が生還出来る事はまずあり得ない。それが雪崩遭難の現実。救える命を確実に救おう」とシビアな言葉で締めくくられフィールド講習は終了。杉の原スキー場のロングコースを全員で滑りアルペンブリックへ移動、総括をしてセイフティキャンプ全工程を終了しました。

2013年11月23日、僕が初めて雪の立山に行ったその日、7名の命を奪う真砂岳での雪崩事故に遭遇しました。何も知らない、出来ないまま妻とともに現場に駆けつけ救命活動に参加し大きなショックを受けました。宿で今後の事を話し合い、「これからバックカントリースキーを楽しむならしっかり知識を身につけよう。あまりにも無知過ぎる」と反省し2014年1月に白馬で雪崩講習を受講しました。それから8年経過してそれなりの経験も積みましたが、リスクに対して安易な選択、油断をしているのではないかと再度雪崩講習を受講しました。

忘れていた事、疑問に思っていた事も解決でき有意義な二日間となりました。

今後も天候、地形、装備等の確な判断をして雪山を楽しもうと思います。

「丹波・京都・近江の山々」

京都新聞掲載を終えて

大槻雅弘

はじめに

平成30年9月（2018）、京都新聞社丹波総局の二松啓紀デスクから、私へ「丹波の山々」のガイド文を執筆してもらえないかと、依頼を受けた。その話を当会京都・滋賀支部で取り組組んではどうかと、委員会へ提案した。結果、支部としてガイド文を執筆することが決まった。執筆にあたって、京都新聞社との窓口を私が担当することになった。

掲載のタイトルは「丹波の山々」と題して、京都新聞丹波版に平成31年1月（2019）から令和元年12月まで、毎月第2日曜日に掲載されることが決まった。

この「丹波の山々」の連載が終わって、このまま終わるのは惜しいと委員から声が出て、引き続き「京都の山々」、さらに「近江の山々」と、延べ39回の連載をすることになった。執筆にあたって、支部委員会のメンバーが平成31年から令和の元号をまたいで4年間、この3回のシリーズ通算39箇月を執筆することになった。

今年の春、令和4年3月9日で京都新聞の掲載が終わったので、この機に掲載内容等を纏め、以下経過報告をする。

1 丹波の山々

(1) ガイド文執筆の担当者について

支部委員会の山行部会から担当者6名を選び、一人2山を担当して12ヶ月を執筆することにした。

(2) 執筆の具体的な内容について

原稿量は本文を800字、メモ・アクセス欄を200字で書き、写真は2枚、ルート地図は新聞社が担当する。取材時期は自由だが、写真は季節感が望ましいが、手持ちがあれば利用してよい。執筆項目の例示として ①山の位置 ②山の特徴 ③山の歴史 ④コース ⑤アクセス等を執筆担当者へ周知した。

(3) 掲載山名の選定について

下記の20山の候補から、概ね亀岡市から5山・南丹市から4山・京丹波町から3山の計12山を選ぶことにした。

亀岡市 候補の7山から5山を選ぶ。

- ①行者山 ②半国山 ③牛松山 ④三郎ヶ岳
⑤明智越え ⑥小和田山 ⑦鴻応山

南丹市 候補の7山から4山を選ぶ。

- ①深山 ②胎金寺山 ③大岩山 ④千歳山
⑤頭巾山 ⑥八ヶ峰 ⑦三国峠

京丹波町 候補の6山から3山を選ぶ。

- ①美女山 ②長老ヶ岳 ③三峠山 ④櫃ヶ嶽
⑤といし山 ⑥和知富士

協議の結果、次の通り月毎の山名と執筆担当者が決まり、京都新聞丹波版に掲載されることになった。

掲載月	山名	標高	等級	執筆担当者
平成31年				
1月	行者山	431m	二等三角点	大槻 雅弘
2月	和知富士	675m	三等三角点	田中昌二郎
3月	牛松山	636m	三等三角点	松下 征文 (例会)
4月	三国峠	776m	三等三角点	須藤 邦裕
令和元年				
5月	明智越え	ルートに	三角点なし	岡田 茂久
6月	長老ヶ岳	917m	一等三角点	松下 征文 (例会)

7月	美女山	482m	二等三角点	笠谷 茂 (例会)
8月	頭巾山	871m	二等三角点	田中昌二郎
9月	三郎ヶ岳	616m	三等三角点	中川 寛 (例会)
10月	八ヶ峰	800m	二等三角点	大槻 雅弘 (例会)
11月	半国山	774m	三等三角点	笠谷 茂
12月	胎金寺山	423m	四等三角点	岡田 茂久 (例会)

約束した「丹波の山々」の12ヶ月の掲載が終わった時点で、二松氏から代わった担当の丹波総局長日下田氏から、令和元年度末まであと3ヶ月執筆してもらえないかと要請された。支部委員会で検討協議して、要望の3回を下記の担当者が執筆することになった。

令和2年				
1月	鴻応山	679m	三等三角点	大槻 雅弘
2月	小和田山	612m	三等三角点	笠谷 茂
3月	弥山	791m	三等三角点	岡田 茂久

以上、「丹波の山々」が令和2年3月に15回の掲載を終えた。

執筆担当者の後ろに記載した(例会)は、支部の例会に組み込んで実施したものである。また、「山の日」の令和元年8月11日には、支部の行事として「美女山」において、「ファミリーハイク@丹波」として、支部、京都新聞、一般の人を含めて45人の参加を得て実施することが出来た。

2 京都の山々

「丹波の山々」が終わり、引き続き令和2年4月から令和3年3月までの12箇月間「京都の山々」として、掲載されることになった。今回の掲載地域は、京都府下全域なので、「丹波の山々」の時に限定された地域ではなく、丹後・丹波、山城地域から掲載の山を選ぶことが出来た。執筆担当者等の経過は次の通りである。

(1) ガイド文執筆の担当者について

一人でも多くの会員に執筆してもらえるように、山行部会と支部委員から一人一山を担当して、前回より6名多い12名を選び執筆することにした。

(2) 執筆の具体的な内容について

原稿、写真等について「丹波の山々」に準じて取り組むことにした。

(3) 掲載山名の選定について

京都府下全域から次の12山を選んだ。

掲載月	山名	標高	等級	執筆担当者
令和2年				
4月	魚谷山	816m	三等三角点	大槻 雅弘
5月	磯砂山	661m	一等三角点	須藤 邦裕

6月	多杵寺山	556m	一等三角点	山田 和男
7月	大江山	832m	二等三角点	伊原 哲士
8月	鬼ヶ城・ 烏ヶ岳	544・537m	無し・一等 三角点	宇都宮道人
9月	依遅ヶ尾山	540m	二等三角点	笠谷 茂
10月	皆子山	972m	三等三角点	松下 征文
11月	地藏山	947m	一等三角点	田中昌二郎
12月	君尾山	582m	二等三角点	幣内 規男
令和3年				
1月	甘南備山	202m	二等三角点	岡田 茂久
2月	ボンボン山	679m	二等三角点	中川 寛
3月	鷲峰山	682m	一等三角点	土井 文夫

以上、「京都の山々」を12回令和3年3月に終えた。これで「丹波の山々」と「京都の山々」を合わせて27回終えることが出来た。支部としては引き続き滋賀県も掲載して欲しいと、京都新聞社に申し入れた。その結果「近江の山々」として、1年間12回掲載してもらえることになった。

3 近江の山々

(1) ガイド文執筆の担当者について

「京都の山々」と同様に、山行部会と支部委員から担当者12名を選び、一人一山を担当執筆することになった。初めて女性の方にもお願いした。

(2) 執筆の具体的な内容について

原稿、写真等については「丹波の山々」「京都の山々」に準じて取り組むことにした。

(3) 掲載山名の選定について

琵琶湖を囲む、湖北・比良・鈴鹿・滋賀南部から、山行部会を開き12山を選び、委員会で原案提示して次の月別山名と執筆担当者を確定した。

掲載月	山名	標高	等級	執筆担当者
令和3年				
4月	蛇谷ヶ峰	902m	二等三角点	大槻 雅弘
5月	御池岳	1247m	三角点なし	笠谷 茂
6月	飯道山	664m	二等三角点	幣内 規男
7月	伊吹山	1377m	一等三角点	竹下 節子
8月	猪背山	553m	三等三角点	中川 寛
9月	賤ヶ岳	421m	三等三角点	土井 文夫
10月	綿向山	1110m	三角点なし	伊原 哲士
11月	赤坂山	824m	四等三角点	須藤 邦裕
12月	武奈ヶ岳	1214m	三等三角点	松下 征文
令和4年				
1月	三上山	432m	三角点なし	駒井 治雄
2月	音羽山	593m	三等三角点	宇都宮道人
3月	比叡山	848m	一等三角点	浅原 明男

終わりに

平成31年4月から令和4年3月まで39箇月。京滋の39山のガイド文を執筆者15人が、精力的に取材山行をして執筆してもらった。執筆担当の方には、こち

らからいろいろと注文を付けて文章や地図を直したり、再度現場へ写真を撮りに行ってもらったり、ご協力をいただいた。とにかく、新聞に「文章」を書くというのが初めての人ばかり。不特定多数の新聞読者の方が読まれる。「掲載の山」が、文と写真で読んで貰って分かりやすく、かつ、登れるように書くのは難しい。読むのは簡単だが書くのは大変である。

一方、校正作業では土地の呼称、人名・建造物のルビを打つかどうか。地図の範囲をどこまでにするか。写真の選定など、毎回いろいろと場所が違うので細かな心遣いが必要。納得のいかない道の分岐を確認するため、私も現場まで足を運び確認した。そして完成原稿が出来て、毎月我が家で新聞社と最終ゲラの打ち合わせをして、校了にこぎつけた。

最後に、京都新聞社の日下田貴政氏、河村亮氏お二人には大変お世話になりました。ありがとうございます。併せて、執筆者の皆さまご協力を頂きましたことに御礼申し上げます。尚、各シリーズ毎に、執筆者全員に集まって頂き、打ち上げ会を開き、僅かであるが京都新聞社からの原稿料を、一部は支部へ寄付金として納め、残りを執筆担当者に配分したことを付記しておく。

参考：次の京都新聞掲載分を挙げておく。

京都新聞掲載

第1回 行者山

2019年(平成31年)1月13日 日曜日

丹波の山々
1 行者山

行者ゆかりの古跡残る

行者山(さようじゃやま) 標高431m。行者ゆかりの古跡が残る。亀岡市外の北西、湯の花温泉の北東に位置する。四季を通じて登れるが、春

と秋が特におすすめ。JR千代川駅から山頂を経て並河駅に至るコースは歩行距離が9.5km、目安は6時間。



図書紹介

山に忘れたパイプ (藤島敏男著)

幣内規男

この本は、著者が意図して世の中に、出した本ではないのが、珍しい。御本人の山仲間だった、深田久弥らの有志が、「お主も、山の本ぐらいは、世の中に残しては」と言う事で、みんなが昔の原稿をかき集めて、後で御本人が、加筆と修正して、1975年に出版された限定版の、著者ただ一冊の山の本です。

永い春の日もすでに蒼茫と暮れかかっていた。池のほとりの雪原をずっと歩いて、峠ともいえない無名の鞍部へと登って来た私達は、太平洋と日本海とに水を分けるこの鞍部の草原に腰をおろして、いまひとたびこの美しい雪に閉された山中の池の印象を心の底に彫りつけようとしていたのだった。愛煙家の著者が黙って、座り込み、パイプを上衣のポケットから取りだそうとさぐったが、パイプはないのである。さっき休んだ処に忘れて来たらしい。今からそこへ戻るには時間が足りない。この日に投宿した宿に、もし後で行かれる時が、あるのならと、お願いしたら、宿の方が探して、送り届けてくれたという随想です。

この本は、随想、紀行、追憶、訳章、書評、山のたよりの順に、日本山岳会会報、山岳、山と溪谷、アル

プ等に掲載されたものを、567ページの分厚い本に仕上げたものです。日本山岳会の創生期のころの、開拓者魂と、そうそうたる岳人が、山岳会を盛り上げるために、活動されている姿が折々の文章に出てきまして、つついページが進みます。昔も今も会の運営には苦勞されているのが分りますし、会員の減少には悩まされているようです。

抜粋①

随想の中で、レンズフードの一文 父不見（ててみえず）山の正月スキーで、頂上から杉ノ峠へ下るとき拾いましたと、串田孫一さんから手紙をそえて届いた。「僕はこれからなるべく変テコな山へ、珍品をたずさえて登ることにしよう。こんどは財布を落しても戻って来るにちがいない。」

抜粋②

上越境の山旅 大正9年（1920年）仙ノ倉山、谷川岳に登山として登ったのは初めてではないか。森 喬と2人で。

抜粋③

5月の山旅 大正14年5月12日～17日守門山・浅草岳・御神楽岳縦走。当時の登山は、どの山に登っても記録的登山の時代です。

追憶の中で、山のふもと グリンデルワルトの目貫通りでは、秩父宮様と妃殿下のおふたり、お伴もなくお散歩のかえりらしい。ゆずり合わないことにはすれちがうことも出来ない狭いみちで、立ち止まって宮様にご挨拶申し上げたとあります。1937年6月

書評では、

書斎の岳人 小島烏水、たった一人の山 浦松佐美太郎、回想の山々 桑原武夫、山と探検 今西錦司、山行 榎 有恒、ヒマラヤー山と人 深田久弥等

著者 藤島敏男 1896年（明治29年9月）7月12日生～1976年（昭和51年）9月9日没

1919年（大正8年）日本山岳会入会。

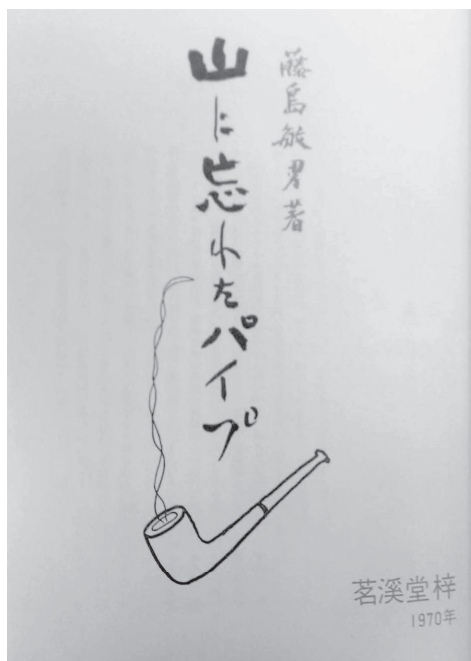
1921年（大正10年）東京帝国大学法学部政治科卒業して、日本銀行入行。熊本、京都各支店長、文書局局長、監事歴任

1935年（昭和10年）から3年間日本銀行パリ駐在。マッターホルンなどスイス、フランスのアルプスの山々に登る。

1971年（昭和46年）岳友深田久弥と一緒に、茅ヶ岳登山中、深田久弥が脳卒中で倒れた際も同行。その際「僕達は眠った深田君の傍で、色調の変わってゆく富士を眺めながら、黙然として、暗然として、悄然として佇んでいた。」と回想している。

この図書を選んだ理由は、この書籍が、出版された

年に、日本山岳会に入会したのと、定価 2500 円は当時の給料からして高額出費でした。この本の中から、登る山を探して、勤務が当時は、土曜日が、勤務時間正午までの半ドンでしたので、すぐさま汽車に乗り、上州、信州の山々に出かけていました。東京からは、夜行列車、日帰り、2000m 級の山が待っていました。この本は、ガイドブックより、文章で魅了してくれた楽しい山登りと、友達と一緒に登る嬉しさを教えて戴きました。



自己紹介欄

今号より、新たに入会された会員の皆様の自己紹介記事を掲載することになりました。紙面の都合で 400 字以内の簡潔なものになりますが、会員同士の交流に役立ていただければと考えております。(編集者)

◎大和田篤 (16819)

日本山岳会に入会した動機

- ・一人で山に行くことが多く、技術も経験も未熟な為、チームで行動する際の登山について学びたいと思いましたのと、様々な講演会等がありそれらに参加して、登山に対する知見を高めて行きたいと思い、入会致しました。

これから登りたい山

- ・北岳

山岳会で取り組みたい活動

- ・講習会等に参加して、登山の技術を身につけて、安全な登山をできるようにしていきたいのと、北極遠征に

向けて役立つ知識等を先人の方々や、多くの登山の経験を積まれた方たちから学び、自分自身の大きな目標である極地遠征の計画を成功させたいと考えております。

◎今中三恵子 (16821)

大阪近郊や近畿の山に日帰りで行きます。年に 1, 2 度アルプスの山々に小屋泊で出かけます。もっといろいろなところへ行ってみたい、多様な活動をしてみたい、という思いで入会させていただきました。よろしくお願いいたします。

◎田中佳洋 (16843)

入会の動機；若年からの山友達と気の置けない山歩きを楽しんできましたが、少し時間にゆとりができてみると、自分の山行の在り方を広げてみたくなりました。生活年齢的には確かな中高年世代ですが、新人の心で謙虚に山について学び直しをしたいと思います。

登りたい山；森の美しい自然の濃い山 比良や大峰には春夏秋冬登っていますので、同じルートでも行くたびに季節による景観の違いを発見して新鮮な驚きを感じています。ですので身近な山や登った山でも、行ける限り何度でも行きたいのですが、まだ登っていない山やルートの中では魚沼三山、平ヶ岳、高妻山、鳥甲山、妙義山など上信越の山々に、大分の九重連山、富士山吉田口ルート、甲斐駒の黒戸尾根が目標です。四国の山も未経験なので石鎚山にも心を寄せています。

取り組みたい活動；登山技術の向上の他、自然保護や環境保全、登山文化に関わること

◎安東勝浩 (16847)

◎安東恵子 (16848)

私共夫婦が、山に初めて出会ったのは、それぞれ、独身の 20 代初めです。でも、1～2 年です。結婚しても、登山の話は出ず、山に再会したのは、50 年後の 2018 年夏です。定年退職した主人が、ふと気が付いてみると、TV の前から動かず、目元は、PC にも同時に向けている生活を始めていました。「え？大丈夫？？以前の活動力はどこに？」と焦りました。少し、一緒に、歩いてみよう、近くの宝ヶ池公園を 1 周 (約 1.5km) ～3 周し、準備、整理運動も含め、約 2 時間の行程を週 3 回始めました。1 年くらい続けるうちに、体力もつき、池の周りの山にも登れるようになりました。友人のご主人が、登山をされていると知り、誘って頂きました。まず、2018 年お盆前に、愛宕山の表参道をご一緒しました。「大丈夫です！十分行けます！」と、言われ、「いけるんや！」と勇気と自信を持たせて頂き、次に向かったのは、鳥取県の大山！軽々と登っていく地元の子供達を後目に、

「はあはあ」言いながら、付いていく私達でした。褒め上手な山の仲間に出会え、京都北山を巡り、廃村八丁に出会った時、「こんな深秘な湿原が、京都に残っているんだ」と、心が震えました。雪山登山も10回を超えました。「この年になって、こんな自然に出会えるとは！」回を重ねる度に「何事も準備が肝心。最悪を想定し、瞬時に行動。仲間を大切に。」と叱咤激励、指導して頂く大先輩達のお姿、お話をお聞きしながら、たった3年半の経歴しかない私達ですが、より深く、真摯に山と向かい合いたいと思い、入会しました。が、この3月、石川県富士写ヶ岳に登った時です。主人が、汗だくになり立ち往生したのです。主人は下山し、私達は登山を続けました。帰宅後、検査を受けましたら、不整脈があり、手術が必要とわかりました。日常生活では、全く異常は感じられませんでした。「山に命を繋いでいただいた」そう思っております。しっかり治療養生し、又足腰を鍛え直し、皆様と楽しく登山を続けたいと思っています。

◎村松稜太（16869）

今年度4月に入会した村松稜太と申します。私は大学の3年からサークル内で本格的に登山を始めましたが、始めたのが遅かった為満足出来るほど登れませんでした。特に冬季登山を行えなかった事が心残りで、比較的時間や資金、体力に余裕があるうちに技術を身につけて登攀を目指したいと思い、入会しました。現在は支部で定期的に行われる登山教室に参加し続け、登攀に必要な技術や知識を身に着けようと考えております。そして、3000メートル級の山々の冬季登攀を目標としております。また、極限の環境の中をチームで行動することによって登山に、さらに登山を超えた様々な事にも通じるチームワークを発揮できる人間になりたいと考えております。諸先輩方にはこれから様々な事を教えていただけると期待しております。入会間もないですが、早速山に関する多くの重要な技術や楽しさを教えていただけております。これからよろしくお願いいたします。

◎藍野裕之（16872）

会員のみなさま、はじめまして。今年で還暦です。会の平均年齢を上げてしまうようで恐縮です。わたしは、東京で生まれ育ちましたが、京都学派への強い憧れといえますか、京都で学生生活を送りたかったなと思い、50歳を過ぎて京都に移住いたしました。

ザイルを使った登山や冬山登山の経験はありません。比叡山の西南の麓、修学院で暮らしはじめて、京都一周トレイルを歩くようになりました。そして、かつて幸いにも訾咳に接する機会を得ました梅棹忠夫先生らが選定した「新山城三十山」を登るのが、目下のところの目標になりました。

ただ、白川通の陸橋に上がりますと比良山系が見え、いい山なみだなといつも感嘆しております。冬には雪を冠する美しい姿に、憧れをつのらせて数年がすぎました。雪山にも挑戦してみたくなり、ベテランのみなさまに指南していただきたく入会いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

◎仲井照雄（16929）

60歳で定年退職後、現在の一般社団法人で事務全般の仕事をしております。

今回、中高年の登山事故が頻発し、日本山岳会京都・滋賀支部が私の地元の比良山系を中心に活動されていることを知り、登山技術を学ぼうと入会いたしました。

2020年11月29日（日）の健幸登山教室（白滝山）に一般人として、初めて参加いたしました。比良山との関わりは、学生の頃、ワンダーフォーゲル同好会で、3月初旬金糞峠→武奈ヶ岳→比良スキー場の縦走が初登山でした。金糞峠直下（1泊目）と比良スキー場（当時営業2泊目）でテント泊をしました。友人からもらった当時の大きな寝袋を使い、深夜の寒さで眠れなかったことをよく覚えております。20代から40代の頃は、5月の連休・8月の盆休み・年末年始に全国の離島や半島に自転車のツーリングに出掛ける一方、登山は年1回程度のペースでした。

鳥海山や月山や聖岳等機会があれば、夏に登りたい山です。そのため、近郊の低山やジョギングで体を鍛えたいと思います。

◎上野陽子（A0433）

このたび入会いたしました上野陽子と申します。美しい霧水の山の写真を何年も見ていて、時間の取れた昨年やっと三峰山と高見山に登り、素晴らしい自然をもっと感じたいと思いました。初心者なので基礎から勉強し真剣に山に接しようと健幸登山教室に通い、技術を学び楽しく続けようと思いました。怪我無く安全に、健康で長く山を楽しみたいです。身近な山を知るために近場を登りつつ、好きなやま本や小説に載っていた山々、昔行きそびれた日本アルプスも順に登りたいです。新しい経験を沢山したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、メール、または FAX、郵送で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

文学の山々 健幸登山教室

メールで担当者まで。

文学の山々 1 大和三山

日 時：2022 年 6 月 25 日（土）雨天実施
 集 合：自家用車利用、参加者にて打合せ。
 行 程：参加者にて打合せ、石舞台古墳見学
 （松本清張「火の路」）
 地 形 図：1/25000 図「桜井」「畝傍山」
 内 容：万葉集から大和三山
 山行の目安：体力 2、技術 1
 参 加 費：友の会 1500 円
 担 当 者：松下征文
 申 込：6 月 20 日（月）までに所定事項記入の上、
 メールで担当者まで。

文学の山々 2 木曽駒ヶ岳

日 時：2022 年 8 月 27 日（土）～ 28 日（日）
 集 合：自家用車利用、参加者にて打合せ。
 行 程：桂木場より往復
 木曽小屋か西駒山荘泊予定
 地 形 図：1/25000 図「木曽駒ヶ岳」
 内 容：新田次郎「聖職の碑」
 山行の目安：体力 4、技術 2
 担 当 者：松下征文
 参 加 費：打ち合わせの上
 申 込：7 月 20 日（水）までに所定事項記入の上、
 メールで担当者まで。

健幸登山教室 5

日 時：2022 年 7 月 22 日（金）～ 25 日（月）
 集 合：自家用車利用、参加者にて打合せ。
 行 程：22 日陀羅佛小屋泊
 23 日針ノ木岳 往復、陀羅佛小屋泊
 24 日（陀羅佛小屋、針ノ木小屋、大沢小屋泊）
 25 日帰路
 地 形 図：1/25000 図「黒部湖」
 内 容：比良から北アルプスへ
 山行目安：体力 4、技術 3
 参 加 費：打ち合わせの上、会員のみ参加。
 担 当 者：松下征文
 申 込：6 月 30 日（木）までに所定事項記入の上、
 メールで担当者まで。

健幸登山教室 7 文学の山々 3

日 時：2022 年 9 月 23 日（金）
 行 程：池の又谷～夜叉ヶ池～三周ヶ岳往復
 集 合：自家用車利用、参加者にて打合せ。
 地 形 図：1/25000 図「美濃川上」「広野」
 内 容：泉鏡花「夜叉ヶ岳」奥美濃入門藪漕ぎ
 山行の目安：体力 4、技術 2
 担 当 者：松下征文
 参 加 費：友の会 2000 円
 申 込：8 月 20 日（土）までに所定事項記入の上、
 メールで担当者まで。

健幸登山教室 6

日 時：2022 年 8 月 13 日（土）
 内 容：沢登り：比良白滝谷
 地 形 図：1/25000 図「比良山」
 山行目安：体力 3、技術 3
 担 当 者：松下征文
 参 加 費：友の会 2000 円
 申 込：7 月 20 日（水）までに所定事項記入の上、

近畿二府 4 県の 低山一等三角点を登る山行

この山行は、今年度新しく取り組んだ年間シリーズです。高齢の方も若い人も楽しく地図の原点である一等三角点を二府 4 県、6 回巡ります。初心者の方には、地図の勉強を兼ねて歩きます。今回兵庫県、和歌山県に続き三回目です。多くの方のご参加をお待ちしております。

第3回 滋賀県

雨壺山 (点名 雨壺山 137.03m)

深溝村 (点名 深溝村 86.76m) 山名はなし

日時: 2022年7月10日(日) 9時00分

集合: JR山科駅 駅前ロータリー

行程: JR山科駅⇒京都東IC⇒彦根IC⇒千鳥ヶ丘公園 ⑨ →雨壺山一等三角点⇒海津大崎⇒深溝村一等三角点⇒しんあさひ風車村⇒湖西道路⇒JR山科駅

地形図: 1/25000 図「彦根東部」「今津」

担当者: 大槻雅弘

申込: 7月6日(水)までに所定事項記入の上、FAX又はメールで担当者まで。

備考: 自家用車を利用しますので車の提供をお願いします。高速料金、ガソリン代等参加者均等割負担。

巨木と山岳展望の旅 1

日時: 2022年7月16日(土)～18日(月)

行先: 長野方面

担当者: 山村孝夫

申込: 6月25日(土)までにハガキまたは電話で担当者まで。

巨木と山岳展望の旅 2

日時: 2022年9月17日(土)～19日(月)

行先: 岐阜方面

担当者: 山村孝夫

申込: 8月20日(土)までにハガキまたは電話で担当者まで。

北山探訪

ムシンボ△ 665.2m (Ⅲ 深見)

日時: 2022年7月23日(土)

集合場所・時間: 参加者に連絡

行程: R162周山街道⇒深見峠トンネル⇒駐車→・656→・641→・635→ムシンボ△665m(Ⅲ深見)→・601→・580→R162⇒駐車地

地形図: 1/25000 図「島」「中」「四ッ谷」「上弓削」

山行の目安: 体力: 3、技術: 3 {注} 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー: 田中昌二郎

申込: 7月15日(金)までに所定事項記入の葉書、FAXまたはメールで担当者まで

白倉岳△ 949.7m (Ⅱ 村井村)

日時: 2022年9月20日(火)

集合場所・時間: 参加者に連絡

行程: 坊村駐車場⇒栢生(駐車)→南岳→中岳→白倉岳△949.7m(Ⅱ村井村)→烏帽子岳→松本地蔵→村井⇒駐車地

地形図: 1/25000 図「久多」「北小松」

山行の目安: 体力: 3、技術: 3 {注} 少々藪漕ぎあるかも

担当者・リーダー: 八木 透

申込: 9月9日(金)までに所定事項記入の上、メールで担当者まで

巨木探訪シリーズ

(7月、8月、9月)

日時: 2022年7月28日(木)

8月25日(木)

9月29日(木)

担当: 山村孝夫

*行先、集合場所等については、担当者に問い合わせる。

大文字山納涼山行

日時: 2022年7月30日(土)

集合場所: 銀閣寺前

集合時間: 17時30分

担当者: 笠谷 茂

申込: 参加者は上記場所、時間に集合。

歴史と文化の山旅

「青春 18 切符で行く湖東の古城
巡り（安土城跡と佐和山城跡）」

湖東には二つの廃城となった城跡があります。

一つは織田信長が築いた安土城。信長の天下統一の直前の 1582 年に明智光秀の謀反により信長は京都の本能寺で横死しました。天下の名城と言われた安土城は混乱の中で焼失しました。現在は石垣のみが残ります。現在も発掘調査が続けられています。城跡は摠見寺の境内になり、2006 年から「入山料」が徴収されています。

もう一つは石田三成の居城である佐和山城。1600 年、関ヶ原の合戦に三成が敗れた後、東軍が押し寄せ落城。徳川家康家臣の井伊直政が移封されましたが、琵琶湖湖畔に彦根城を築き移動。佐和山城はそのまま廃城となりました。佐和山は井伊家と家臣団の菩提寺が建ち並びます。菩提寺の一つである龍潭寺境内を通り佐和山城跡に登ります。戦国時代の城の遺構が多く残ります。道は少し荒れています。

日 時：2022 年 8 月 20 日（土）

集 合：JR 京都駅・中央改札前 午前 9 時

行 程：JR 京都駅（908 発 2 番ホーム東海道線米原行き快速）⇒（953 着）安土駅⇒安土城（往復）⇒安土駅（1321 米原行き快速）⇒（1339 着）彦根駅⇒佐和山城跡（往復）⇒彦根駅（1622 発東海道本線播州赤穂行き快速）⇒（1712 着）京都駅
（交通費は京都からは 2270 円で「青春 18 切符」とほぼ同じ料金です。参加者で決めます。）

山行の目安：体力 2、技術 1

担 当 者：伊原哲士

申 込：8 月 13 日（土）までに所定事項記入の上担当者まで。

山歩会例会

賤ヶ岳（421m）～山本山（324m）

賤ヶ岳から山本山への稜線を歩きます。

日 時：2022 年 9 月 27 日（火）

集 合：JR 京都駅 7:20（新快速米原行き 7:33 発に乗車、米原駅乗り換え、木ノ本駅着 8:58）

行 程：JR 木ノ本駅⇒（タクシー＋リフト）⇒ 賤ヶ岳 →・368 →△ 360 →・199 →古保利古墳群→山本山→湖北町山本⇒（タクシー）⇒ JR 河毛駅

地 形 図：1/25000 図「竹生島」「木之本」

山行の目安：体力 2、技術 2

担 当 者：中川 寛

申し込み：9 月 20 日（火）までに所定事項記入の上、

FAX またはメールで担当者まで。

「未知の山旅シリーズ」（第 11 回）

日 時：2022 年 10 月 13 日（木）～18 日（火）

目的の山域：越後、会津方面

計画の概要：2022 年 7 月下旬に支部ホームページへ掲載

計画詳細：参加希望者の人数、宿泊先の状況等を考慮し策定し、9 月 30 日までに決定します。

担 当 者：笠谷 茂

申 込：2022 年 8 月 28 日（日）までに所定事項記入の上メールで担当者まで。

日本山岳会岐阜支部 50 周年記念式典と
5 支部懇親山行（猪臥山 1519m）

今西錦司氏が京都大学を退官後、岐阜大学の学長に就任しました。その縁で日本山岳会岐阜支部が設立されました。岐阜支部はその意味で京都・滋賀支部とは縁の深い支部です。岐阜支部は今年で 50 周年を迎えます。今回は 5 支部懇親山行も企画されています。猪臥山は高齢者には少しきつい山ですが、エスケープのルートもあります。多くの参加を希望します。

日 時：2022 年 10 月 23 日（日）～24 日（月）

場 所：ひだプラザホテル（岐阜県高山市花岡町 260
電話：0577-334600）

日 程：

23 日 1230 ひだプラザホテル受付開始

1300 岐阜支部 50 周年記念式典

1400 山岳講演会（山と溪谷社 萩原浩司氏）

1800 祝賀会

24 日 800 ひだプラザホテルロビー集合

830 記念山行猪臥山 1519m（5 支部懇親山行昼食おにぎり付き）出発

1400 解散

（交通手段は京都・滋賀支部の参加者で調整して決めます。）

山行の目安：体力 3、技術 2

費 用：式典参加費 3600 円

祝賀会・宿泊費 16400 円

祝賀会のみ参加 8000 円

記念山行のみ参加 無料（昼食はご用意ください。）

申 込：（京都・滋賀支部事務局で取りまとめて申し込みます。）

氏名・住所・性別・年齢・生年月日と参加項目を記載して京都・滋賀支部の下記支部事務局までお申し込み下さい。申し込み締め切り

は8月29日(月)までです。旅行業法の関係で、東部トップツアーズ(株)岐阜支店(岐阜市金町66 電話:058-263-4657)が旅行代理店となります。申し込み後、旅行代理店から請求書が参加者に届きます。期日までに各自がお振り込み下さい。

(申し込み、問い合わせ)
伊原哲士

会務報告 支部役員会

第433回支部役員会

2022年2月2日(水) 18:30～19:15 LINE ミーティング 出席:10名 欠席:17名

「報告」

1月に実施された初詣山行、支部新年会、平日例会山行・クノスケ、健幸登山教室・冬山3について報告。

支部長・支部局長報告

1月20日に行われた支部合同会議について報告。
5年後を見据えた若い会員増、シニア登山の活性化等。
3名の入会、1名の退会があった。

山行部会報告

2022年度の山行計画の概要が報告された。

「計画」

2月に実施予定の山行計画について協議・承認。

第434回支部役員会

2022年3月2日(水) 18:30～19:45 (於) 鴨沂会館 + LINE ミーティング 出席:14名 欠席:13名

「報告」

2月に実施された第11回健幸登山教室・比良正面谷について報告。

支部長・事務局長報告

新入会員(準会員1名、正会員2名)の紹介、友の会入会1名の承認。

「計画」

3月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「その他」

京都新聞連載「京都の山々」は今年度で終了予定。
大概委員より支部だよりの実績を報告。

支部総会について協議。

第435回支部役員会

2022年4月6日(水) 18:30～19:30 (於) 鴨沂会館 + LINE ミーティング 出席:14名 欠席:12名

「報告」

3月に実施された平日例会山行・二ノ谷山、巨木探訪、4月2日に開催された支部総会について報告。

支部長・事務局長報告

会員増強策への対応、登山計画書の提出、友の会入会者の承認などが行われた。

会計委員報告

支部会費納入状況の報告、ルールの確認があった。

古道調査委員会

比叡の古道調査について報告。

「計画」

4月に実施予定の山行計画について協議、承認。

「その他」

京都新聞社連載「京都の山々」の取り組みを終えての報告、支部40周年に向け出版を目指したい旨の提案があった。

(中川 寛記)

令和4年度会費納入のお願い

支部活動推進のため、下記の会費を納入していただきますようよろしくお願いいたします。

支部会費 2,000円
会友会費 2,500円
友の会会費 3,000円

*振り込み口座 ゆうちょ銀行
01070-3-33177

日本山岳会京都・滋賀支部
*振込用紙に氏名および会員番号を明記ねがいます。

記

お願い 酒井敏明
前号(No.146)の拙稿「図書紹介」に1か所誤記がありました。

恐れ入りますが訂正して下さるようお願いいたします。

18ページ、右側下から18、19の2行を次のように改める。
(れる麦粉にする。このツァンパをバター茶などと一緒に食べるのがかれらの朝食の定番である。ソバは低)

——次号 148 号 予告——

2022 年 9 月 15 日発行 原稿締切 7 月 31 日(日)

原稿送付先 編集担当 幣内規男

＝ あ と が き ＝

コロナウイルス騒動も 2 年半が経ち、with コロナの流れに変わってきたが、一日も早い収束が待ち望まれる。

今年度の事業計画には新しいシリーズ山行も加わり、支部活動が益々活発になることが期待される。

皆様それぞれに合った例会に積極的に参加され、会員交流の輪が広がることを願っている。

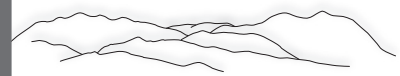
日本山岳会京都・滋賀支部会報「支部だより147号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者 松 下 征 文
編集者 中 川 寛
印 刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
(株)土倉事務所
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

大文字山 トレッキング手帖



さあ、登ってみよう！
送り火の山へ——



フィールドソサイエティー（法然院森のセンター）編

I 大文字山へのまなざし

京都市街から見上げる大文字山・大文字送り火
大地の不思議・樹木観察の楽しさ・コケの散歩道
きのこの世界・バードウォッチング
昆虫の魅力・アニマルトラッキング
カラーミニ図鑑

II 大文字山の自然の魅力

トレッキングの基本
トレッキング 銀閣寺コース・鹿ヶ谷コース・蹴上コース
山科コース・如意越えコース
トレッキング立ち寄りスポット

III 大文字山トレッキングコース

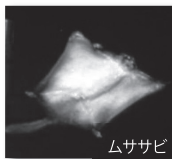
IV 如意越え歴史散歩

古道・山林寺院跡と山城跡

身近な大文字山で多様な生きものや
豊かな自然にふれてみませんか？



センダイムシクイ



ムササビ



モリアオガエル



タマムシ



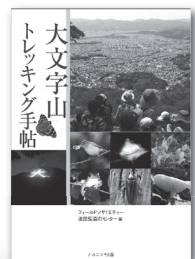
サンコウチョウ

● フィールドソサイエティー（法然院森のセンター）

京都東山、大文字山のふもとにある法然院森のセンターを拠点に、「森の子クラブ」「自然観察会」「観察の森づくり」「講演会・法然院森の教室」「オープンルームプログラム」などの環境学習活動を行う市民グループ。代表：久山喜久雄 事務局長：久山慶子

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町 15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095



1,430円(税込)・A5判・112頁

IWAI CYCLE

【木津屋橋本店】

〒600-8248

京都市下京区大宮通木津屋橋下ル

営業時間：10：00～19：00

休日：無休(年末年始および夏期)

1F/一般車コーナー 075-341-7702

2F/スポーツ車コーナー 075-341-7703

【久世店(オーダーフレーム工場)】

〒601-8205

京都市南区久世殿城町 162

営業時間：10：30～18：00

休日：毎週水曜日・木曜日

TEL：075-921-8679

I FEEL THE WIND



The Japanese Alpine Club

日本山岳会

会員証

公益社団法人 日本山岳会
〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-4
TEL: 03-3261-4433 <https://www.jac1.or.jp/>



●旧会員証でも構いません●

日本山岳会 会員証のご提示で
店頭価格から御値引いたします！

※特価品・SALE 品は対象外です。
詳しくはスタッフまで！

取扱い
ブランド

gan well

ANCHOR

inelli

vittoria

HED. DOLAN

PINARELLO

LOOK

ANCHOR

SCOTT

FOCUS

Wilier

corratec

など